



シスメックス

サステナビリティデータブック 2020

2019年4月1日 - 2020年3月31日

目次

CSRマネジメント	2	ガバナンス	60
基本的な考え方・体制	3	コンプライアンス	62
マテリアリティと非財務目標の進捗	4	コンプライアンスマネジメント	62
		コンプライアンス推進の取り組み	65
社会	6	リスクマネジメント	68
製品・サービスを通じた医療課題解決	7	リスクマネジメント体制	68
シスメックスが取り組む医療課題	8	事業継続にかかわるリスクへの対応	69
事業活動を通じた医療課題解決	9	情報セキュリティの強化	70
製品の普及等による医療アクセスの改善	11		
責任ある製品・サービスの提供	15	社外からの評価	72
品質・安全性の確保	16		
製品・サービスに関する適切な情報開示	18	実績データ	75
サプライチェーンの評価・管理	19	社会性データ	75
カスタマーリレーション	21	環境データ	78
魅力ある職場の実現	24	第三者保証	83
働きやすい職場環境の確保	25	ガバナンスデータ	84
ダイバーシティの推進	29		
人材の育成	32	情報開示体系／編集方針	86
健康経営の推進	34		
労働者の権利の尊重	37		
人権の尊重	38		
社会貢献活動	39		
環境	43		
環境への配慮	44		
環境マネジメント	45		
製品ライフサイクルにおける環境配慮	49		
事業所活動における環境負荷低減	53		
生物多様性保全	58		

CSRマネジメント

基本的な考え方・体制	3
マテリアリティと非財務目標の進捗	4



CSRマネジメント

基本的な考え方・体制

基本的な考え方

現在、地球上では、感染症の流行や高齢化、技術革新を応用した新たな治療法による医療費の高騰、新興国・開発途上国における医療アクセスの向上など、さまざまな医療課題が存在しています。「持続可能な開発目標(SDGs)」においても、人々の健康や福祉に関する目標が掲げられ、医療課題解決に向けたグローバル企業の取り組みへの期待はますます高まっています。

そうした中で、シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」のミッションである「ヘルスケアの進化をデザインする。」に基づき、創業から取り組んできた検体検査分野を事業の核としながら、世界の医療課題解決に貢献することを目指して活動しています。特に、世界190カ国以上の医療機関への製品、サービスの提供を通じ、「健康寿命の延伸」や「持続可能な医療インフラの構築」を実現することを目指しています。

こうした活動を継続していくためには、お客様、従業員、取引先、株主様、社会など関わる全てのステークホルダーと真摯に向き合うことにより、持続可能な経営を実現していくことが重要と考えています。「Sysmex Way」において、それぞれのステークホルダーに対する提供価値を明確にするため行動基準を制定するとともに、全グループ従業員が日々の業務において実践できるよう、浸透活動を行っています。法令遵守はもとより、常に高い倫理観に基づいた事業活動を推進していくことや、地球環境への配慮、多様な人材が働きやすいと感じる職場環境の構築などに取り組むことを大切にしています。

- ▶ 企業理念・行動基準についてはこちらをご覧ください。
- ▶ シスメックスの価値創造についてはシスメックスレポートをご覧ください。

CSRマネジメント体制

シスメックスは、CSR活動の企画・立案および推進、社内外へのCSR情報発信などを行う専任部署としてCSR・環境推進部を設置し、取締役 専務執行役員の管理・統括の下、活動を推進しています。

また、持続可能な社会の実現および当社の持続的な成長に向けて、優先的に取り組むべき課題(マテリアリティ)を特定しています。グループ中期経営計画(2019-2021年度)において、マテリアリティに紐づく非財務目標を設定し、CSR活動を経営の中に明確に位置付けました。非財務目標は各部門の実行計画・活動に展開され、進捗は取締役会など経営会議で報告し、目標の見直しや新たな施策の検討などを行い、PDCAサイクルを回しています。

国連グローバル・コンパクト

シスメックスは、CSRへの取り組みを積極的に推進していくために、2011年2月、「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。マテリアリティの特定やCSR活動の推進にあたっては、国連グローバル・コンパクトの10原則や、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」などを参照しています。



国連グローバル・コンパクト



持続可能な開発目標(SDGs)のロゴ

- ▶ 国連グローバル・コンパクトの10原則はこちらをご覧ください。 [🔗](#)

CSRマネジメント

マテリアリティと非財務目標の進捗

シスメックスでは、持続可能な社会の実現および当社の持続的な成長に向けて、優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）を特定しています。グループ中期経営計画（2019-2021年度）において、マテリアリティに紐づく非財務目標を設定し、CSR活動を経営の中に明確に位置付けました。非財務目標は各部門の実行計画・活動に展開され、進捗は取締役会など経営会議で報告し、目標の見直しや新たな施策の検討などを行い、PDCAサイクルを回しています。

▶ マテリアリティの検討（特定プロセス）についてはこちらをご覧ください。

マテリアリティ		関連するSDGsの目標
製品・サービスを通じた医療課題解決	事業活動を通じた医療課題解決	  
	製品の普及等による医療アクセスの改善	
責任ある製品・サービスの提供	品質・安全性の確保	 
	製品・サービスに関する適切な情報開示	
	サプライチェーンの評価・管理	
魅力ある職場の実現	働きやすい職場環境の確保	 
	ダイバーシティの推進	
	人材の育成	
環境への配慮 (基準年度:2016年度)	製品ライフサイクルにおける環境配慮	   
	事業所活動における環境負荷低減	
ガバナンス	コーポレート・ガバナンス	 
	コンプライアンス	
	リスクマネジメント	

※1 エンゲージメントスコアの詳細はP.26を参照

※2 対象:シスメックス株式会社単体

※3 過去の開示データから一部修正

※4 目標値は設定せずモニタリング指標として設定

	KPI	実績			目標	
		2017年度	2018年度	2019年度	2021年度	2025年度 (エコビジョン)
ヘマトロジー市場シェア	ヘマトロジー(血球計数)分野における機器・試薬・サービスの市場規模に対する連結売上高比率	52.7%	53.8%	54.7%	※4	
特許保有件数	特許、実用新案、意匠の保有件数の合計	2,709件	2,987件	3,143件	※4	
特許出願件数	特許、実用新案、意匠の出願件数の合計	301件	346件	306件	※4	
学術論文数	当社製品を用いてユーザーから発表された学術論文数	155報	166報	176報	※4	
新興国売上高比率	連結売上高における新興国の売上高比率	39.2%	39.5%	39.7%	※4	
CSR調査数	CSR調査に回答した原材料一次取引先の割合※3 (括弧内は国内取引先のみを対象とした回答の割合)	80.7% (99.6%)	84.0% (99.6%)	84.8% (99.2%)	※4	—
エンゲージメントスコア※1	企業風土調査結果	72%	—	—	75%	
離職率※2※3	定年退職を除く、正社員のための離職率	3.22%	3.78%	3.09%	※4	
労働災害度数率※2	延べ実労働100万時間当たりの死者数の割合	0.35	0.89	0.86	0.35未満	
労働災害強度率※2	延べ実労働1000時間当たりの労働損失日数の割合	0.05	0.06	0.08	0.05未満	
女性マネジメント比率	課長級以上の女性比率	15.2%	15.2%	15.5%	16.0%	
平均教育時間※3	人事部門が提供する研修を対象とした従業員1人当たりの平均研修時間 (括弧内はオンライン学習を含む)	15.7時間※2 (24.9時間)	15.8時間※2 (28.9時間)	17.0時間※2 (27.7時間)	25.0時間	
CO ₂ 排出量の削減率(機器製品使用時)	機器1台当たりのCO ₂ 排出量の削減率	1%増加	3%増加	4%増加	10%削減	15%削減
水消費量の削減率(機器製品使用時)※3	機器1台当たりの排水量の削減率	1%削減	1%削減	3%削減	10%削減	15%削減
CO ₂ 排出量の削減率(出荷物流)	単体売上高当たりの出荷物流に伴うCO ₂ 排出量の削減率	17%削減	1%増加	17%削減	10%削減	15%削減
CO ₂ 排出量の削減率(事業活動)	連結売上高当たりの事業活動に伴うCO ₂ 排出量の削減率	17%削減	21%削減	17%削減	10%削減	50%削減
水消費量の削減率(事業活動)	連結売上高当たりの事業活動に伴う水消費量の削減率	8%削減	7%削減	6%増加	10%削減	15%削減
リサイクル率	廃棄物総排出量当たりのリサイクル排出量	89%	76%	67%	88%以上	93%以上
内部通報件数	同左	32件	14件	11件	※4	
倫理違反件数	法律に違反した事象およびグローバルコンプライアンスコード違反があったとして制裁処分が科された事象の件数	—	9件	7件	※4	—

社会

製品・サービスを通じた医療課題解決	7
シスメックスが取り組む医療課題	8
事業活動を通じた医療課題解決	9
製品の普及等による医療アクセスの改善	11
責任ある製品・サービスの提供	15
品質・安全性の確保	16
製品・サービスに関する適切な情報開示	18
サプライチェーンの評価・管理	19
カスタマーリレーション	21
魅力ある職場の実現	24
働きやすい職場環境の確保	25
ダイバーシティの推進	29
人材の育成	32
健康経営の推進	34
労働者の権利の尊重	37
人権の尊重	38
社会貢献活動	39



マテリアリティ

製品・サービスを通じた医療課題解決



なぜ重要か

近年、先進国では高齢化を背景として、増加する医療費の削減や健康寿命の延伸に関するニーズが高まっています。一方、新興国・開発途上国では、人口の増加に医療インフラの整備が追いついておらず、世界で4億人の方が必要な医療を受けられない状況にあり※、医療サービスの利用可能性の向上が課題となっています。また、「持続可能な開発目標(SDGs)」では、人々の健康や福祉に関する目標が掲げられ、医療課題解決に向けたグローバル企業の取り組みへの期待はますます高まっています。

これらの状況を踏まえ、疾病の予防や早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす検体検査領域では、価値の高い検査や診断技術の創出、世界三大感染症(HIV/AIDS、結核、マラリア)をはじめとする医療課題の解決が期待されています。シスメックスはこれらの課題に取り組むことで、医療の発展と人々の健やかな暮らしの実現に貢献すると同時に、新たな技術や新規市場の創出によるビジネス機会の獲得と、持続的な成長を実現できると考えています。

※ 出典:WHO “Universal Health Coverage ”

マネジメントアプローチ

【方針】

グループ中期経営計画(2019-2021年度)では、ヘマトロジー・尿検査・血液凝固検査・免疫検査分野といったIVD事業における地域の特性に応じた製品ラインアップの拡充と、販売・サービス体制の強化、ライフサイエンス事業における個別化医療に資する新たな診断価値創出を目指します。

▶ 「シスメックスグループ中期経営計画」についてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 465KB) 

【体制】

代表取締役会長兼社長と担当執行役員で構成されたグローバル戦略会議において、グループにおける中長期的な経営の方向性や重要な戦略や課題に関する討議・審議を行います。

▶ 2020年度の事業推進体制についてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 561KB) 

【目標】

モニタリング指標として「ヘマトロジー市場シェア」「特許保有件数」「特許出願件数」「学術論文数」「新興国売上高比率」を設定しています。

▶ 目標の詳細はこちらをご覧ください。

▶ 事業活動と戦略については、シスメックスレポートをご覧ください。

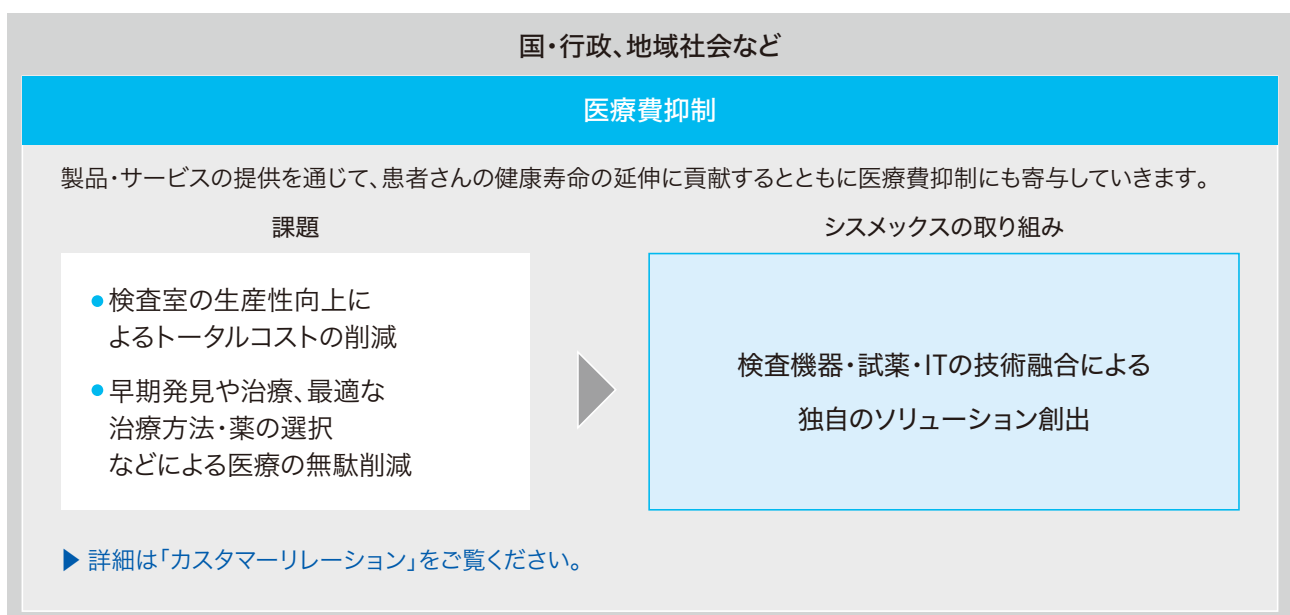
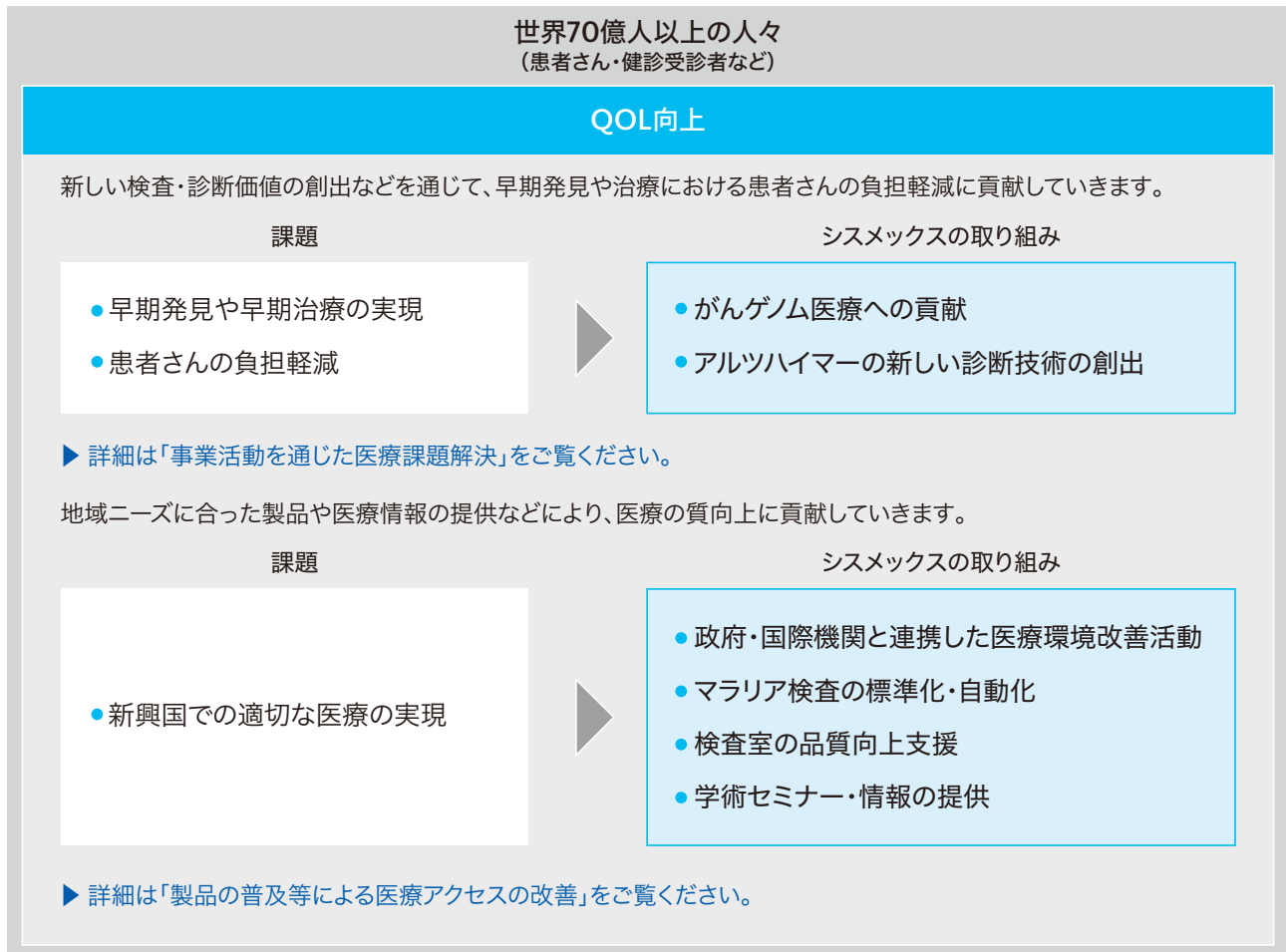
関連するSDGs



シスメックスが取り組む医療課題

製品・サービスの提供や新しい検査・診断価値の創出により、世界中の医療機関とともに、患者さんのQOL向上と、医療費抑制への貢献に取り組んでいます。

▶ シスメックスの価値創造についてはシスメックスレポートをご覧ください。



マテリアリティ

製品・サービスを通じた医療課題解決

事業活動を通じた医療課題解決

がんゲノム医療の取り組み

近年がん治療では、確定診断に加え、薬剤の効果予測や再発モニタリングなどを目的に、遺伝子やタンパク質を用いた多くの検査が行われています。なかでも、がんゲノムプロファイリング検査は、がん組織中の数百からなる複数の遺伝子を一度に測定し、その患者さんのがん固有の遺伝子異常を網羅的に解析し、がんの診断や治療、抗がん薬の選定に役立つ有用な情報を提供することを目指しています。

シスメックスが、国立研究開発法人国立がん研究センターと共同で開発したがんゲノムプロファイリング検査用「OncoGuide™ NCCオンコパネル システム」は、体外診断用医薬品分野の「先駆け審査指定品目」として指定され、2018年に遺伝子変異解析セット(がんゲノムプロファイリング検査用)として医療機器製造販売承認を取得しました。そして2019年より、評価療養のための理研ジェネシスによるアッセイサービス(受託解析サービス)を開始しました。さらに同年、がんゲノムプロファイリング検査用システムとして、保険適用を受けるなど、国内初となる取り組みを進めてきました。2020年4月には、標準治療開始時に本検査を実施した場合の有用性を評価する研究が、先進医療の対象として適用されました。

また、血液のがんといわれる造血器腫瘍性疾患である、真性赤血球増加症、本態性血小板血症、原発性骨髄線維症の診断に有用であるJAK2V617Fの遺伝子変異量を測定する遺伝子検査キット「ipsogen JAK2 DX試薬」が、日本の保険適用を受け、2020年1月より販売となりました。これまで国内には、製造販売承認および保険適用を受けJAK2V617F遺伝子変異量を測定する体外診断用医薬品はありませんでした。「ipsogen JAK2 DX試薬」により、国内の患者さんに対して受診機会が拡大されるとともに、骨髄液採取の必要性を事前に判断できることなどから、患者さんの身体的・経済的負担が低減されることが期待されます。

アルツハイマーの早期診断、治療に向けた取り組み

世界の認知症患者数は、2019年には5,000万人を越え、2050年には1億5,200万人に達すると予測されています^{*}。中でも認知症患者の60%以上を占める「アルツハイマー型認知症」は、認知機能障害が現れる前から、「アミロイドベータ(以下Aβ)」というタンパク質の固まりが脳内に蓄積することが引き金となり発症すると考えられています。そのため、Aβを標的とする治療法では、早期診断・早期介入が有効性を高めると考えられています。現在、Aβの蓄積状態を調べるために行われている脳画像検査(PET検査)や脳脊髄液検査は、高額で検査できる施設も限られ、患者さんの身体への負担が大きいことが課題となっています。

シスメックスは、従来の検査に比べて安価で患者さんの身体への負担の少ない血液検査によるアルツハイマー型認知症の診断に関して、エーザイ株式会社と共同研究を進めています。2019年12月に開催された第12回アルツハイマー病臨床試験会議(CTAD)では、現在開発中の血液による診断法により、脳内アミロイド病理を把握できる可能性が示唆されました。[\(詳細はニュースリリース「血液による簡便なアルツハイマー病診断法の創出に向けた学術報告」をご覧ください\)](#)

今後も、認知症の予防および治療に対する新しい診断技術の創造に取り組み、患者さんとその家族のQOL向上に貢献します。

^{*} World Alzheimer Report 2018

新型コロナウイルス感染症への取り組み

2020年3月、WHOが新型コロナウイルスの世界的な感染拡大について「パンデミック」を宣言し、世界では今もなお新型コロナウイルス感染症との闘いが続いています。

シスメックスでは、すでに50カ国以上へ供給されている新型コロナウイルス核酸検出キットを有する中国BGI社との販売代理店基本契約を締結し、国内臨床現場への提供に向け、2020年3月より「2019-nCoV検出蛍光リアルタイム RT-PCR キット」の発売を開始しました。この製品は、リアルタイムPCR装置とともに利用することで、新型コロナウイルスのRNAを検出するものです。

また、神戸市、株式会社エスアールエルと共同で、神戸医療産業都市内の衛生検査所「シスメックスBMAラボラトリー」に新たなPCR検査体制を構築し、2020年6月より運用しています。この取り組みでは、PCR検査を当社が担当し、検査体制の構築支援および検体回収・結果報告などをエスアールエルが担当します。

さらに、PCR検査の必要性や治療初期の重症度予測ならびに治療モニタリングを目指した抗原・抗体検査の開発・実用化に向けた取り組みも行っています。

新型コロナウイルス感染症対策に向けた支援としては、「こうべ医療者応援ファンド」へ3,000万円を寄付することを決定しました。

シスメックスはグループ内外のパートナーとのチームワークを発揮するとともに、社会に求められる体外診断用医薬品を安定的に供給することで、安心な医療の提供と人々の健康の実現に貢献します。

▶ [新型コロナウイルス感染症への取り組みの詳細はこちらをご覧ください。](#)

マテリアリティ

製品・サービスを通じた医療課題解決

製品の普及等による医療アクセスの改善

世界には医療環境や医療制度など保健システムの未整備により、適切な医療を受けることが困難な地域が存在します。

シスメックスは、グローバルに事業を展開する企業が果たすべき責務の一つとして、一人でも多くの方が適切な医療を受けられるよう、医療アクセスの改善に向けた取り組みを進めています。

アフリカにおける活動

シスメックスは、南アフリカ、ガーナ、ブルキナファソ、ナイジェリア、エジプトのアフリカ5カ国に現地法人を設立し、教育施設の展開や政府機関、研究機関、NPOとの連携などを幅広く行うことで、現地の医療水準の向上を目指しています。

ガーナへの尿検査自動化技術普及促進により医療水準の向上に貢献

アフリカ諸国では、感染症がまだまだ大きな課題である一方、都市部を中心にがん、糖尿病、腎臓病などの非感染性疾患(NCDs)の患者さんが増加しています。NCDs対策においては、予防や早期発見・早期治療が重要とされている一方で、スクリーニング方法の一つとして有効かつ比較的簡便な尿検査が十分に普及していないことや、手作業による検査結果の不均一性などが課題となっています。

シスメックスは、JICA「開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業」において、2018年よりガーナにて「尿検査自動化技術普及促進事業」を推進しています。ガーナの国立教育病院であるKomfo Anokye Teaching Hospital(KATH)へ尿検査を全自動化する搬送システムを導入し、現地の医療従事者に向けたセミナーやシンポジウム(参加者延べ483名)を開催しました。これらの活動を通じて尿検査自動化の臨床的価値や有効性を啓発し、ガーナにおける医療水準の向上に貢献しています。



KATHでのシンポジウムの様子

臨床検査室のキャパシティ・ビルディングを支援

シスメックスは、アフリカの各現地法人にシスメックスアカデミーとよばれるトレーニングセンターを開設し、アフリカ各国の販売代理店や医療従事者などを対象に臨床的価値の教育や装置のメンテナンスなどの研修を行っています。また検査室の品質管理体制が国際標準ISO 15189に準拠するよう、独自に開発したメンターシップ・トレーニングを提供しています。



メンターシップ・トレーニングの様子

政府機関・国際機関との連携

シスメックスは、ブルキナファソの保健省と連携し、血液検査のネットワークを同国全土に確立・維持するプロジェクトを実施しました。施設規模に応じて装置を約100台設置し、650名以上の検査技師やエンジニア、小児科医に対してそれぞれの役割に応じたトレーニングを行いました。また、2019年にベルリンで開催されたG20 Compact with Africa (CwA)では、本プロジェクトが官民連携の事例として紹介されました。

またガボンでは、日本大使館による草の根・人間の安全保障無償資金協力「ランパレネ地方母子保健局機能拡充計画」「アケベ・ブレン地方母子保健局機能拡充計画」において、両母子保健局の医療従事者に対する当社装置の使用方法、メンテナンス等の研修を行い、保健人材育成と医療環境の改善に貢献しました。

このほかシスメックスは、アフリカ全土で各国保健省やWHOなど多くの政府機関や国際機関と連携し、各地の医療アクセス向上に取り組んでいます。

第7回アフリカ開発会議 (TICAD7) 公式併催イベント「日本・アフリカビジネスEXPO」に出展

シスメックスは、「第7回アフリカ開発会議 (TICAD*7)」の開催にあたり、日本とアフリカのビジネス関係のさらなる発展に向けて、官民連携で取り組む日本企業の一社として外務省より「TICAD官民連携推進特使」を委嘱されました。また、TICAD7公式併催イベント「日本・アフリカビジネスEXPO」に参加し、当社の販売・サービス&サポートや、官民連携プロジェクト、人材育成プログラム、感染症対策への取り組みなどを紹介しました。



シスメックス展示ブース

※ 日本政府が主導し、国連、国連開発計画、世界銀行およびアフリカ連合委員会と共同で開催されるアフリカの開発をテーマとする国際会議

新興国・開発途上国における感染症への取り組み

シスメックスは世界の三大感染症と位置付けられるマラリアやHIVへの取り組みとして、各疾病の診断を支援する技術・製品を提供しています。

マラリア・エリミネーションへの貢献

シスメックスは世界の三大感染症の一つであるマラリアの排除に向け、自社の事業分野である検査・診断領域における課題解決に挑戦しています。

2019年にCEマークを取得した「多項目自動血球分析装置 XN-31」が、2020年6月に、マラリアの診断補助を目的とした高度管理医療機器(クラスⅢ)^{※1}として、国内で初めて薬事承認を取得しました。

現在主流となっているマラリア検査は、簡易診断キットや顕微鏡が用いられますが、いずれも前処理を含めて約15分から30分の時間がかかる上、顕微鏡検査には熟練の技術を要することが課題でした。それに対してXN-31は、前処理作業を伴うことなく、マラリア原虫等に感染した赤血球の有無とその比率を約1分^{※2}で高精度に自動測定することができます。^{※3}

マラリアは、早期診断・早期治療により死亡者数を減らすことができる疾患であり、診断に有用な検査結果を迅速かつ容易に提供可能な本製品を臨床現場へ提供することで、国内の輸入感染症対策へ貢献します。

また、高度管理医療機器としての国内薬事承認は、新興国・開発途上国向けの医療アクセス改善を進める国際基金団体等の調達基準^{※4}として挙げられています。国際基金団体等と連携することで、新興国・開発途上国などの医療資源が限定される国や地域への導入を推進し、世界におけるマラリア排除(マラリア・エリミネーション)に貢献します。

また、シスメックスは2016年よりマラリア対策に関係する研究機関・企業などにより構成されるマラリア・コンソーシアムの活動および運営に参画しています。アジア・アフリカにおいて産官学連携で進められるプロジェクト活動に、「検査・診断」分野で貢献しています。TICAD7に続き開催された第6回日経アジア・アフリカ感染症会議では、アフリカ諸国からの参加者に対し、マラリア・コンソーシアムによる産官学連携の取り組みを広く発信しました。

※1 高度管理医療機器(クラスⅢ):不具合が生じた場合、人体へのリスクが比較的高いと考えられる医療機器を指す。

※2 検体セットから結果の判定までの時間

※3 XN-31は顕微鏡法によるマラリア診断を置き換えるものではありません。また、本結果のみで診断を行うことはできません。その他の臨床情報を用いた医師の総合的な判断により確定診断がなされます。

※4 国際基金団体等の調達基準:WHOや国際基金団体では、新興国・開発途上国におけるさまざまな製品の市場導入を加速するため、厳格審査機関を定め、その機関からのハイリスク製品としての承認取得を調達基準の一つとすることで、審査を簡略化することを認めている。日本における高度管理医療機器(クラスⅢ)としての薬事承認は、その厳格審査の基準の一つとなっている。

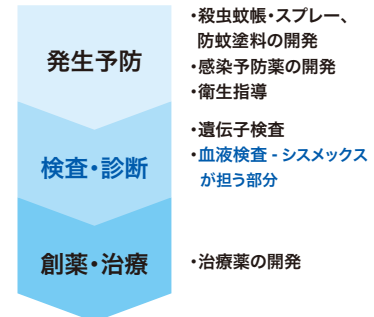
HIVの診断や治療の質向上への貢献

シスメックスは、シスメックス パルテックが開発・製造するCD4陽性リンパ球検査システム「CyFlow™ Counter System」を新興国や開発途上国で提供しています。このシステムは、血液中のCD4陽性リンパ球の数と比率をわずか3分で測定し、小型・ポータブル式であることに加え、メンテナンスを簡略化するなど、簡便かつ迅速、安定的な検査を支援します。

またこのシステムは、WHOによる事前認証(Prequalification)[※]を取得しました。本認証の取得により、医療資源が限定される国や地域への導入が促進され、新興国や開発途上国におけるHIVの診断や治療の質向上に貢献しています。

※ 医薬品・検査・ワクチン等のヘルスケア製品を資源の限られた国々で安心して使用できるようにするため、WHOが品質や安全性、効能などを担保していることを示す認証制度。2001年にHIV/AIDS用の医薬品向けに制度が開始され、現在では新興国・開発途上国が物品調達時に参照するリストとして使われたり、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(Global Fund)をはじめとした基金団体がこの事前承認を受けた製品を優先的に選択している。

▶ <http://www.who.int/topics/prequalification/en/> 



マラリア・コンソーシアムによるイニシアチブ



CyFlow™ Counter

グローバルヘルス技術振興基金「GHIT Fund」に参画

シスメックスは、「開発途上国の人々が感染症による苦難を乗り越え、先進国と同様に繁栄と長寿社会を享受できる世界を目指す」を活動のビジョンとする公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)に2015年より参画しています。GHIT Fundの活動は第2期目(2018-2022年)に入り、当初の「製品開発」から「その製品を必要としている人々へ届ける活動」にシフトしています。当社も引き続きGHIT Fundの第2期の活動に参画し、日本発の技術革新による新たな感染症診断薬の開発・提供に向けた取り組みを推進し、開発途上国における感染症撲滅に貢献していきます。

臨床検査の標準化・質向上に向けて学術支援活動を展開

シスメックスは、中国やモンゴル、カンボジア、ミャンマー、タイ、フィリピンにおいて学術支援活動を行ってきました。

モンゴルにおいては、従来のヘマトロジー・生化学・免疫分野に加えて、2017年からは新たに血液形態検査分野にも対象を拡大し、支援活動を継続しています。現地の臨床検査技師に、技術的、学術的ノウハウを提供するとともに、国家的に実施される血液形態検査の外部精度管理のしくみの構築・運営を支援することで、モンゴルの医療水準の向上に貢献しています。

また中国では、2002年より血球計数検査の国家の標準器[※]として、当社の血球計数標準器が採用されており、これを元に中国国内における全ての血球計数装置の登録検査や外部精度管理が行われています。また、血液検査・基準測定操作法の技術移管・技術交流、臨床検査国家ガイドラインの策定支援などの継続的な支援とともに、2019年度からは最新型の標準器の貸与を行っており、中国における血球計数検査の精度向上および検査の標準化に貢献しています。

※ 血球計数検査の国家標準の値を決めるための装置

その他医療従事者への教育支援

医療アクセスの向上には、医療インフラの整備とともに、適切に訓練を受けた医療従事者の存在が不可欠です。シスメックスは、臨床検査室の品質向上や臨床検査の標準化・質向上を通じた教育支援に加え、医療従事者の方々を対象としたセミナーや勉強会の開催、最新の学術情報の発信などを実施しています。

▶ [学術活動についてはこちらをご覧ください。](#)

マテリアリティ

責任ある製品・サービスの提供



なぜ重要か

品質問題や製品の信頼性を脅かす問題により、製品・サービスの品質および安全性に対する社会からの要請が高まっており、また、企業の責任範囲は取引先を含めたサプライチェーン全体に拡大しています。さらに、「持続可能な開発目標(SDGs)」では持続可能な製造責任や労働環境に関する目標が掲げられています。

シスメックスは、人々の生命と健康に携わる医療業界で事業を展開する企業として、製品・サービスの品質・安全性を高め、適切にサプライチェーンを管理することは、医療の質向上に貢献するとともに、お客様満足を高めブランド力強化につながる重要な活動であると考えています。

マネジメントアプローチ

【方針】

シスメックスは、「ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します」という品質方針に基づき、高品質で安全性の高い製品・サービスを提供しています。また、「調達方針」に基づきCSRに配慮した調達活動を推進し、取引先とともに持続的に発展することを目指しています。

▶ 責任ある製品・サービスの提供に関する方針はこちらをご覧ください。

【体制】

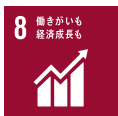
代表取締役会長兼社長の統括・管理の下、品質保証部門が中心となり品質マネジメントに取り組んでいます。また、取締役 常務執行役員が管掌する生産SCM部門によるサプライチェーンマネジメントを推進しています。

【目標】

モニタリング指標として、CSR調査数を設定しています。

▶ 目標の詳細はこちらをご覧ください。

関連するSDGs



マテリアリティ




責任ある製品・サービスの提供

品質・安全性の確保

品質・安全性に関する方針

シスメックスでは、「品質方針」「行動基準」およびグローバルコンプライアンスコード「1. お客様への安全と安心の提供」に基づき、国際的な法令、規格などを遵守するための体制を整備し、高品質で安全性の高い製品・サービスを提供しています。

また、インターネットの普及やITの急速な進歩に伴い、医療機器、サービスにおいてもサイバー攻撃の脅威にさらされているとの認識から、グループで開発・提供する製品・サービスの情報セキュリティに関する基本方針として、「製品セキュリティポリシー」を定め、開発・製造および市販後のリスク管理を強化しています。

- ▶ 品質方針はこちらをご覧ください(PDF形式 / 122KB) 
- ▶ グローバルコンプライアンスコードはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 631KB) 
- ▶ 製品セキュリティポリシーについてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 285KB) 

品質マネジメント

グループ品質マネジメント体制

シスメックスでは、代表取締役会長兼社長の統括・管理の下、品質保証部門が中心となり品質マネジメントに取り組んでいます。

具体的には、開発、製造、販売・サービスの各部門の責任者が出席する品質会議を毎月開催し、製品・サービスの品質・有効性および安全性のモニタリングと改善に向けた対策の検討を行っています。また、規制当局の査察、品質目標、マネジメントレビューからのアウトプット指示への対応などの審議を行う品質システム委員会を定期的に開催し、グループの品質マネジメントシステムの維持、改善に関する活動を推進しています。

また、全ての最終製品の生産拠点※で国際規格ISO 9001またはISO 13485の認証を取得しています。グループ全77社中では、ISO 9001は33社、ISO 13485は18社が認証を取得しています。2019年度の内部品質監査で5件、外部品質監査で1件の不適合が見つかり是正対応を進めています。

※ 100%子会社



- ▶ 活動およびサイトの適用範囲は規格により異なります。詳細は www.tuv.com の ID 0910589004 を参照。 

継続的な改善プログラム

品質を維持・向上するためのしくみを強化

臨床検査で用いられるシスメックスの製品は、人々の生命と健康を守る上で極めて重要な役割を果たしています。そのため、製品の設計・開発段階において、世界各国の安全規格を満たすことはもちろん、さまざまなしくみを構築して、製品品質の維持・向上を図っています。

製品の開発プロセスにおいては、市場に導入するまでに5つの「クオリティ・ゲート」を設けて品質を確認しています。また新規製品には設計・開発段階で、既存製品には設計変更時において品質・安全性に関するリスクアセスメントを実施し、リスクの高い事象に関してはリスク低減の対応を実施しています。また、シスメックスが販売する他社製品についても製造業者への監査や製品の検査を実施し、品質確保に努めています。このような取り組みに加えて、万一不具合などがあった際には、すぐにそれを把握し、対応できるような体制を整えています。

製造現場においては、製造工程およびサプライヤーの不適合発生状況を毎月監視し、不適合率の高いサプライヤーに対しては品質改善を適宜指示するとともに、定期的に品質監査を実施することで品質を確保する体制を整えています。さらにグローバル品質苦情処理システムによって、グローバルかつタイムリーに市場から品質情報を収集し、不具合情報を入手した際は直ちに原因を究明し、不具合品の市場流出を防止しています。また発生した不具合に対し是正処置・予防処置が必要な場合には、グループ規程に則って速やかに計画立案し、処置やその後の妥当性・有効性確認までを実施しています。

第三者機関から認定された品質の高い製品・サービスの提供

シスメックスでは客観的な信頼性を高めるため、製品の検査結果に関する品質保証体制を強化しています。

その取り組みにより、2018年4月、標準物質の生産を行うシスメックス国際試薬において、標準物質生産者の能力に関する国際規格ISO Guide34(現在のISO 17034)の認定を取得しました。ISO Guide34認定は、適切な品質の標準物質を供給できる能力を証明するもので、血球計数検査分野において日本で初めての取得となりました。本認定の取得により、当社製品・サービスのデータ保証に関わる客観的な信頼性が高まり、臨床検査機関のお客様は、適切な検査データを提供できる能力を持つことをグローバルに実証することができます。

またシスメックス株式会社は、以下の認証も取得しています。

- ・ISO/IEC 17025(試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項)
- ・ISO/IEC 17043(適合性評価技能試験に対する一般要求事項)
- ・ISO 15195(臨床検査分野の基準測定検査室に対する要求事項)

従業員へのトレーニング

品質・安全に関わる教育に注力

シスメックスでは、品質方針教育に加えて、品質マネジメントに関する関連部門への定期的な教育、特定の部門・職種を対象とした法規制に関する専門的な教育等を実施しています。2019年度は国内グループ会社の開発、製造、販売・サービス部門およびISO認証取得事業所全従業員約3,000名に対して品質教育を行いました。海外グループ会社についても、全ての最終製品の生産拠点※とISO認証取得事業所において品質教育を実施しています。

また、世界190以上の国や地域で製品・サービスを展開している企業として、開発部門の技術者に各国の法規制の教育を実施し、法規制に則った製品開発を徹底しています。

※100%子会社

マテリアリティ

責任ある製品・サービスの提供

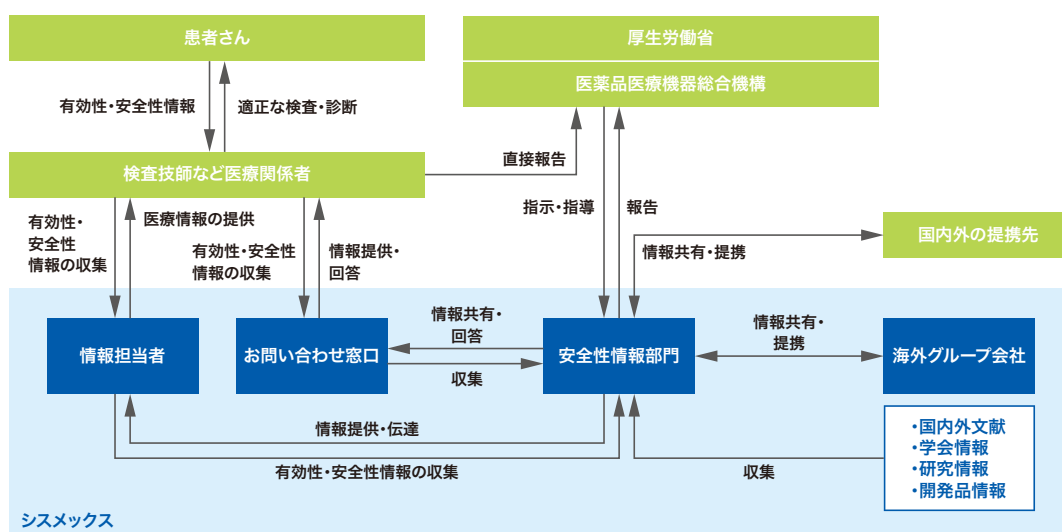
製品・サービスに関する適切な情報開示

品質・安全性に関する情報

お客様からの情報をグループ内で共有

シスメックスは、製品の品質と安全性に関する情報を管理する信頼性保証部を設置して外部から寄せられる情報を調査・分析して設計・製造など各部門と共有し、品質改善だけでなく、次代を担う新製品の開発に活かす体制を整えています。

製品の品質と安全性に関する情報を管理する体制



ウェブサイトで回収・改修の情報を開示

シスメックスでは、製品の回収・改修などの情報を当社ウェブサイト内「製品に関する重要なお知らせ」で開示しています。

▶ 「製品に関する重要なお知らせ」についてはこちらをご覧ください。

模倣試薬の積極的な取り締まり

シスメックスは、正確な検査結果を保証するために、医療機関のお客様には純正の機器と試薬のセットでご使用いただくようお願いしています。近年、一部の地域でシスメックス製試薬の名称や容器の形状を模倣した試薬の流通が発見されています。模倣試薬を使用した場合、検査結果の信頼性が保証できず、場合によっては患者さんに健康被害をもたらす危険性があります。

このため、模倣試薬の市場流通状況を継続的に監視しており、模倣試薬を発見した場合は、知的財産権を用いて現地の行政機関や司法機関を通じて迅速かつ徹底的な取り締まりを実施しています。また、現地の新聞に広告を掲載し、医療機関が模倣試薬を使用しないよう注意喚起しています。

マテリアリティ

責任ある製品・サービスの提供





サプライチェーンの評価・管理

サプライチェーンに関する方針

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコード「2.公正な取引と自由な競争の推進」および「調達方針」に基づき、公正で自由な競争の推進に関する各国・地域の法令等を遵守しています。その上で、お客様をはじめとした全ての取引先と公平かつ公正に接し、適切な条件で取引を行い、相互の信頼関係と研鑽により取引先の皆様とともに発展する企業を目指します。また、調達活動における環境配慮の基本的な考え方としては「グリーン調達基準」を制定しています。

サプライチェーンにおける強制労働や児童労働、人身取引、搾取などの撲滅を規定した「英国現代奴隷法」に対しては、シスメックス UKがホームページに声明文を公開するなど、同法に適正な対応をしています。

関連する方針は以下をご覧ください。

- ▶ 「グローバルコンプライアンスコード」(PDF形式 / 631KB) 
- ▶ 「調達方針」(PDF形式 / 131KB) 
- ▶ 「グリーン調達基準」(PDF形式 / 212KB) 
- ▶ 「Anti-Slavery and Human Trafficking」(シスメックス UKホームページ) 

サプライチェーンマネジメント

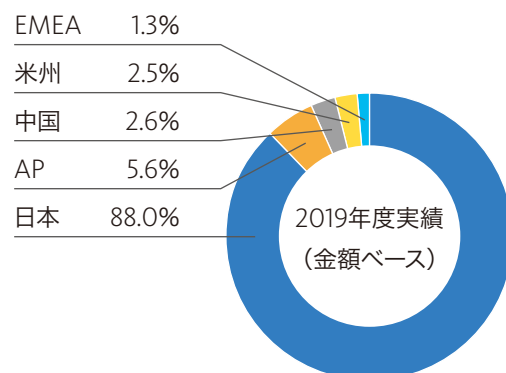
CSR調査の実施

シスメックスでは、取引先におけるCSR活動状況を確認するためのCSR調査を実施しています。既存取引先向けの調査はグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンが開発したCSR調達セルフ・アセスメント・ツールを採用しており、調査項目は人権、労働慣行、腐敗、環境、紛争鉱物など多岐にわたります。当社は分科会メンバーとしてこのツールや、他の各種アウトプット制作に取り組んでいます。新規取引においては、CSRの取り組みに問題がある場合は取引を実施しないことを定めており、CSR調査に加えて経営者との面談も行います。こうした取り組みは海外の取引先についても同様であり、特に児童労働や職場環境については調達担当者が現地を訪れて状況を確認し、問題がないかを確認しています。

2019年度はCSR調査を行うとともに、リスク分析の結果、フォローアップを7社に対して行いました。さらに取引先のCSR活動を推進する活動として、抽出された一次サプライヤー4社に対して、二次サプライヤーの管理状況を確認しました。また、グループ中期経営計画(2019-2021年度)における非財務目標のモニタリング指標としてCSR調査数を設定し、2019年度の実績は84.8%となりました。今後も、継続したサプライチェーンマネジメントの強化を図っていきます。

シスメックス ヨーロッパでは、全ての新規取引先に対して人権・グリーン調達等を含むCSR調査を行っています。オックスフォード ジーン テクノロジーでは、全ての取引先を対象にアンケートを実施し、モニタリングやフォローアップ、調達部品の重要性に応じた定期的な再評価を行っています。

調達地域分析(機器)



- ▶ グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 共通版CSR調査票「CSR調達 セルフ・アセスメント・ツール・セット」はこちらをご覧ください。 
- ▶ 非財務目標の進捗はこちらをご覧ください。

調達部品・原材料の品質向上に向けて

シスメックスでは、品質に関する要求事項を明確にした品質保証協定書を提示し、当社の調達方針についてご理解いただいた上で契約を締結しています。納入品の品質確認を行い、是正や予防措置の実施が必要と判断された場合に品質監査を実施しています。

新規の取引先に対しては品質監査を実施し、品質管理が適切に運用されているかどうかを確認しています。また、既存の取引先に対しても定期的な品質評価を行い、品質を維持・向上するための取り組みを行っています。

サプライチェーンでの連携

シスメックスでは、当社の事業の方向性や調達方針をご理解いただいた上で取引ができるよう、取引先との関係強化に努めています。

2019年度は、当社従業員向けに、取引先が持つ独自の技術を紹介する展示会やセミナーを実施し、より良い製品の設計・開発につなげると同時に、相互理解をいっそう深める場としました。2020年度も、取引先との協調性のある活動の推進に向けて、品質・安定供給・環境・BCP等に関する情報共有を通じて、取引先とのコミュニケーション強化に努めます。

調達関連法規制遵守を目指した社内啓発活動

シスメックス株式会社では、電子調達システムを構築し、不当な代金減額や返品を防止するとともに、同システムに関する研修を毎年実施しています。また、全調達部門員を対象として下請法に関する教育を実施し、さらに新規配属者を対象として「調達方針」「CSR」「グリーン調達」「調達リスク」に関する教育を実施しています。

責任ある製品・サービスの提供

カスタマーリレーション

お客様満足度の向上

国内外でお客様満足度調査を実施

シスメックスでは米州、EMEA*、アジアパシフィックの主要国に加え、中国や日本など、さまざまな国や地域でお客様の満足度調査を実施しています。展開している製品やサービスの内容に応じて、それぞれの国や地域で独自の指標を用いています。

シスメックス アメリカは、血球分析装置メーカーを対象としたお客様満足度調査「IMV ServiceTrak」(IMV社主催)で14年連続No.1を獲得しています。また、優れた製品・サービスを提供する企業に贈られる「Supplier Excellence Awards」(Quest Diagnostics社主催)の受賞企業4社の中に選ばれました。

その他EMEAやアジア・パシフィックでも定期的にお客様満足度調査を行っており、高い満足度を得られているという調査結果が出ています。

▶ 顧客満足度の調査結果については「実績データ」をご覧ください。

※ 欧州・中東・アフリカ地域

お客様のニーズから独自のソリューションを創出

シスメックスでは、検査機器・試薬・ITの技術を融合し、お客様のニーズに応える独自のソリューション創出に努めています。近年は、複数の機器をつなぎ検査の自動化を実現することで、検体の取り扱いにおける感染リスクの軽減や検体の取り違えの防止、検査室の生産性を高めるロボティクス技術を駆使した搬送システムの構築、試薬交換回数を大幅に低減する濃縮試薬の提供などを行っています。

サービス&サポートの充実

お問い合わせに、迅速・確実にお応えするために

シスメックス株式会社では、日本国内のお客様のための相談窓口「カスタマーサポートセンター」を設置し、豊富な知識を持った専任スタッフが、365日24時間体制(別途契約が必要)でお問い合わせに対応しています。同センターでは、過去のお問い合わせ内容やメンテナンス履歴などを蓄積し、すぐに参照できるようにすることで、お客様からのお問い合わせ・ご要望に迅速・確実にお応えしています。

また、相談窓口などを通じて収集したご要望は、VOC(Voice of Customer:お客様の声)チームが集約し、さまざまな角度から分析した後、関係部門へフィードバックされ、新たな製品開発や業務改善に活用されています。2019年度には、国内市場から約18,000件のお客様の声を収集しました。お客様の声から生まれた新たな機能や装備を搭載した装置は、製品カタログにVOCマークを記載しており、高い評価をいただいています。

グループ全体でも、各地域にカスタマーサポートセンターを設けてお問い合わせに迅速・確実にお応えする体制を整えるとともに、お客様のご要望にいち早く応えるしくみの構築に努めています。

Voice of Customer

VOC

お客様の声
が
活
き
て
い
ま
す

Voice of Customer = お客様からのご意見・ご要望を製品開発に活かす取り組み。
日本国内で主要な機器・試薬の、研究開発から製造、販売、サービス&サポートまでを一貫して提供する
シスメックスならではの取り組みです。

ITを活用したソリューションの提供

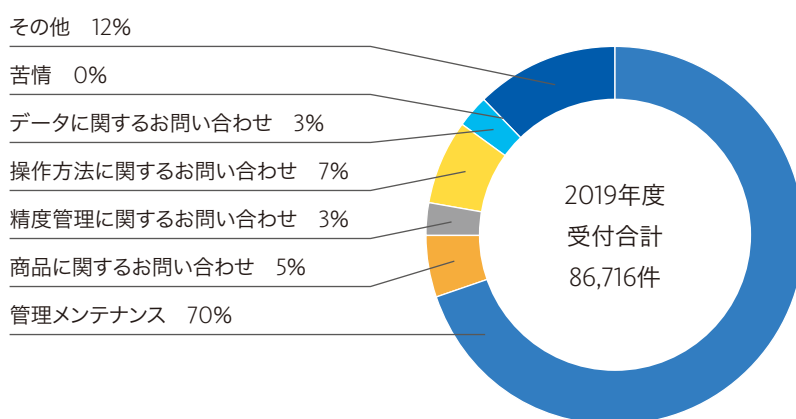
シスメックスは、病院などの検査装置の精度管理^{*1}や自動監視、リアルタイム解析をもとにした故障予測機能などを行うことで装置の安定稼働を支援するネットワークサービスSNCSTM*2を提供しています。

世界的な情報化の進展などを背景に加速する効率化と品質強化への要求が高まる中、2018年度には新たなネットワークソリューション「CaresphereTM」の提供を開始しました。「CaresphereTM」は、IoTやクラウドを活用して、病院の検査業務や検査室運営のさらなる効率化と、検査装置や業務の品質管理を支援するアプリケーション・サービスから提供を開始し、将来的には、地域医療に携わる施設やそれらの施設で従事する幅広い医療従事者の方向への展開も予定しています。

※1 精度管理とは、検査装置の測定値を保証するための管理手法。お客様の検査装置が正しく機能しているかを確認すること。

※2 SNCSTM (Sysmex Network Communication Systems)とは、お客様の分析装置と、当社のカスタマーサポートセンターをインターネットでオンライン化することにより、リアルタイムの外部精度管理・装置状態の自動監視や、Webによる情報提供を行うサービスのこと。なお、実施するサポートサービスの内容は各地域により異なります。利用には別途契約等(有償)が必要です。

カスタマーサポートセンターお問い合わせ内容



▶ 過去3年間の実績は「実績データ」をご覧ください。

オンラインでのトレーニングサポートの実施

シスメックスでは、お客様サポートの一環として、機器およびメンテナンスのトレーニングを各地域で実施しています。

広大なエリアに医療機関が点在するシスメックス アメ리카では、お客様がシスメックスの研修施設に出向くことなく必要に応じてトレーニングを受けられるよう、ネットワークでつないだリアルタイムのバーチャルトレーニングを提供しています。また、シスメックス ヨーロッパでもデジタルトレーニングやライブウェブセミナーを提供するeラーニングポータル「シスメックスアカデミーオンライン」を運営しており、このトレーニングツールが、ブランドンホールグループの「Best Customer Training Program」のシルバークラウンを受賞しました。優れたプログラム内容、システムの機能性、イノベーション性などが評価されました。

役立つ情報の発信

シスメックスでは、当社ウェブサイト「サポートインフォメーション」で、お客様に役立つ情報の発信を行っています。

最新情報をお伝えするメールマガジン配信サービス、コンテンツや閲覧履歴などを管理できるマイページ機能など、お客様によりご活用いただけるよう、継続的に機能の充実を図っています。



ウェブサイト「サポートインフォメーション」

臨床検査の質的向上へISOを活用

近年、臨床検査分野において検査結果の質の向上が強く求められており、世界的に国際規格への関心が高まっています。その一つとして、「ISO 15189(臨床検査室の品質と能力に関する要求事項)」を取得する臨床検査室も増加しており、すでに認定取得が義務化されている国もあります。

シスメックス株式会社は、臨床検査の校正機関に対する国際規格ISO/IEC 17025およびISO 15195の認定を取得しており、当社が提供している自動血球分析装置に対する校正サービスの品質は、国際的な基準で担保できていることが証明されています。また、この分野での認定取得は国内では初となります。

お客様はISO 15189が要求する校正を実施していることを証明するために、当社が発行する校正証明書グローバルに認められた認証書として利用することができます。2019年度末時点で、延べ5,800台以上の装置に対して認証書を発行しました。

また、外部精度管理サービスであるSNCS/eQAPI※は全産業分野で国内初となるISO/IEC 17043「適合性評価-技能試験に対する一般要求事項」の認定を取得しました。

※ SNCS(Sysmex Network Communication Systems)はネットワークを利用して臨床検査機器の精度保証および故障監視・修理サポートなどを行うサービス。eQAPIは機器や試薬メーカーを選ばない外部精度保証。

学術活動

シスメックスは、日本をはじめとするアジア各国の医療従事者などを対象に最新の医学情報を提供するためのセミナーを開催するとともに、各国の保健省をはじめとした国家機関や主要学会とともに、医療水準の向上に向けた学術活動を展開しています。

医療従事者向けの学術セミナーを開催

シスメックスでは医師および臨床検査技師など第一線で活動されている医療従事者を対象とした学術セミナーや勉強会を各地域で実施しています。

臨床検査分野における最新の情報を提供し、その知見を共有する場として1978年より毎年開催しているシスメックス学術セミナーは、2019年6月に第42回を迎えました。2019年度は「動き始めたがんゲノム医療 -現状と展望-」をテーマに、神戸・東京のメイン会場に加え、国内は13会場、海外4会場で開催および一部アジア地域への個別配信を行い、約1,800名の方々に参加いただきました。

その他、インド・中国等においても、血液検査・凝固検査・免疫検査に関連する学術セミナーを開催し、ベトナム・インドネシア・トルコで学術シンポジウムを開催しました。

このような取り組みを継続することで、多くの医療関係者と信頼関係を構築するとともに、医学的な知識を蓄積し、医療の質の向上に貢献しています。



第42回 シスメックス学術セミナー(日本)



第7回 インターナショナル シスメックス学術セミナー(インド)



第22回 シスメックス 学術研討会(中国)

▶ 臨床検査の標準化・質向上に向けた学術支援活動についてはこちらをご覧ください。

マテリアリティ

魅力ある職場の実現



なぜ重要か

企業が持続的に成長するために、優秀な人材の確保は不可欠であり、それを実現するにはダイバーシティの推進や働きやすく働きがいのある魅力ある職場づくりが必要です。また、「持続可能な開発目標 (SDGs)」においても、ジェンダーの平等や、働きがい、不平等の是正などの目標が掲げられています。

シスメックスは、「人材」を持続的な成長のための重要な経営資源の一つと捉え、魅力ある職場づくりを進めることが優秀な人材を惹き付け、企業競争力の強化につながると考えています。

マネジメントアプローチ

【方針】

シスメックスは、Sysmex Wayの「行動基準」で従業員に対して「多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にすると共に、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。」と定めています。これに基づき、人材開発体系を用いた継続的・計画的な能力開発や、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、各種制度の導入などを通じて、多様な人材が安心して能力を発揮できる職場環境の整備を進めています。

▶ 魅力ある職場の実現に関する方針はこちらをご覧ください。

【体制】

取締役 専務執行役員が管掌する人事本部を設置し、魅力ある職場の実現に取り組んでいます。

【目標(2021年度)】

- ・エンゲージメントスコア 75%
- ・労働災害度数率 0.35未満
- ・労働災害強度率 0.05未満
- ・女性マネジメント比率 16.0%
- ・平均教育時間 25.0時間

▶ 目標の詳細はこちらをご覧ください。

関連するSDGs



マテリアリティ

魅力ある職場の実現

働きやすい職場環境の確保

公正な評価・処遇

能力・成果に基づく公平な人事評価

シスメックスは自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会を提供するとともに、公正な処遇に努めています。職掌・資格等級に応じた適切な処遇を実施しており、性別による基本給与の差はありません。

公正な処遇のベースとなる評価については、「企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いる」という考え方に基づき、成果のみの評価ではなく、成果発揮にいたるプロセスの評価（コンピテンシー評価）も行っています。また、公平かつ納得性のある人事評価を目指し、評価結果、上司コメントを各個人に開示しています。

また、グローバルコンプライアンスコードの「8.人権の尊重と安全・衛生の向上」では「各国・地域の労働関連法令等を遵守」することを掲げ、各国・地域の最低賃金、生活水準を満たす給与体系をとっています。

▶ [人材マネジメントシステムの考え方はこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 111KB\)](#) 

社員のキャリア設計をサポート

シスメックス株式会社では、全社員を対象とした「自己申告制度」を運用しています。この制度では、毎年個々の社員へのヒアリングを行い、中長期のキャリアや海外勤務、職種についての希望などを聞き取っています。これによって、一人ひとりに自己のキャリアの方向性とライフプランについて考える機会を持ってもらうとともに、申告内容を能力開発や人材配置に活用しています。

契約社員・派遣社員などの登用・待遇改善

シスメックス株式会社は、契約社員や派遣社員の正社員登用にも積極的に取り組んでいます。契約期間が限られている有期雇用者に対し、公平に登用機会を提供することを社内規程において明文化するとともに、イントラネットなどで周知徹底を図っています。

また、働きやすい環境づくりを目的として、正社員に対し導入していたフレックスタイム制や福利厚生プログラムシステム「カフェテリアプラン[※]」の適用対象者を契約社員にも拡大しています。これにより、通院や子育て、介護など、個々の事情に応じて従業員が自主的に就業時間を設定し効率的に業務を遂行しています。今後も適宜、制度などの見直しを実施し、従業員の待遇をより良いものにしていきます。

※ 福利厚生プログラムシステムの一つ。会社が毎年、従業員に「カフェテリアポイント」を提供し、自らの意思によって特定の福祉（ワークライフバランス向上）のために費やすことができる。

モチベーションアップにつながる社内表彰制度を導入

シスメックスでは、グループで最も貢献した個人および組織・グループをたたえる表彰制度「グループCEOアワード」を導入し、毎年、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践した個人1名、グループ1組を選出してその功績をたたえ、全社で共有しています。

また、研究開発者のモチベーション向上と知的財産に対する意識を高めることを目的とした「特許大賞・優秀特許賞」「パテントマイスター」「出願記念賞」の3つの「特許表彰制度」、さらに品質改善に関する成果を表彰する「品質アワード」を設けています。

従業員満足度向上に向けた取り組み

シスメックスでは、2年に1回、グループ全従業員を対象とした「企業風土調査」を実施しています(前回:2017年度実施)。その中で従業員満足度についても調査をしています。調査結果は各部門にフィードバックし、各部門では取り組む課題を選択し、改善に向けたアクションプランの立案・実行、モニタリングのPDCAを通じて、従業員満足度向上に向けた取り組みをしています。調査のスコアが伸び悩んだ部門に対しては、人事部門が改善に向けたアドバイスを実施しています。

また、企業風土調査の結果は、エンゲージメントスコアとして非財務目標に設定し、中長期の人事施策に展開しています。エンゲージメントスコアを継続的なモニタリング指標と定め、継続的に人事施策を展開することで、さらなる従業員満足度向上に取り組んでいます。なお、2019年度から2020年度にかけて人事制度の再構築を行い、新制度運用後の組織の状態確認と実態に沿った施策展開につなげるため、2019年度の同調査の実施は見送りました。次回の企業風土調査は、2020年度に全グループにおいて実施予定です。

▶ 非財務目標の進捗はこちらをご覧ください。

ワークライフバランスへの理解と支援

ワークライフバランス支援制度の利用促進

シスメックス株式会社では、イントラネット上の専用サイトでワークライフバランス支援制度についてわかりやすく解説している他、管理職・一般職層向けに「魅力ある職場づくり」のeラーニングを実施したり、各部門教育として時間管理や働き方を考えるセッションなども開催し、周知を図っています。また、キャリアや働きがい、仕事とプライベートの両立、異文化理解などの幅広いテーマについて、自由な意見交換を実施するダイバーシティ・ラウンドテーブルを通じて従業員同士の情報共有を行う中で、制度の利用促進も図っています。

▶ ダイバーシティ・ラウンドテーブルについてはこちらをご覧ください。

仕事と育児の両立支援制度

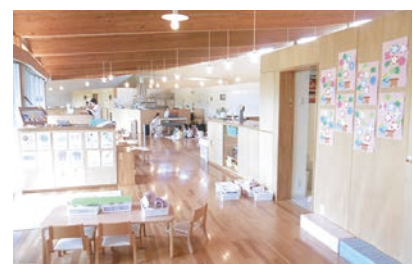
さまざまな休暇制度や社内託児所で育児を支援

シスメックス株式会社は、出産前から育児までに対応した多様な制度を制定しています。不妊治療や出産前のつわりに対しての休暇制度をはじめ、出産後は子どもが2歳になるまでの育児休業や中学就学前までの勤務時間短縮制度および在宅勤務制度が利用できます。さらに、子どもの看護のために会社を休む際、法定休業以外に積立有給休暇を半日単位で利用できる制度を導入しています。復職前セミナーや育児休業中の従業員向けにニュースレターを配布し、スムーズな復帰を支援しています。

また、男性社員の育児参加ニーズにあわせ、配偶者出産時の特別休暇を出産の前後1カ月以内に2日取得できるようにし、出産準備にも参加できるよう配慮しています。また「育み休暇」として子どもが1歳になるまでの間は育児を理由に連続3日間の特別休暇を設けています。

研究開発拠点テクノパーク内には、従業員から乳幼児を預かる社内託児所「シスメックスキッズパーク」を設置し、常時保育だけでなく、配偶者が非常勤で働いている場合や、保護者の疾病、弔事などにより家族での保育が困難なときなどの一時的な利用にも対応しています。

これらの制度を計画的に整備してきたことが認められ、厚生労働省から次世代認定マーク(愛称「くるみん」[※])を取得しています。



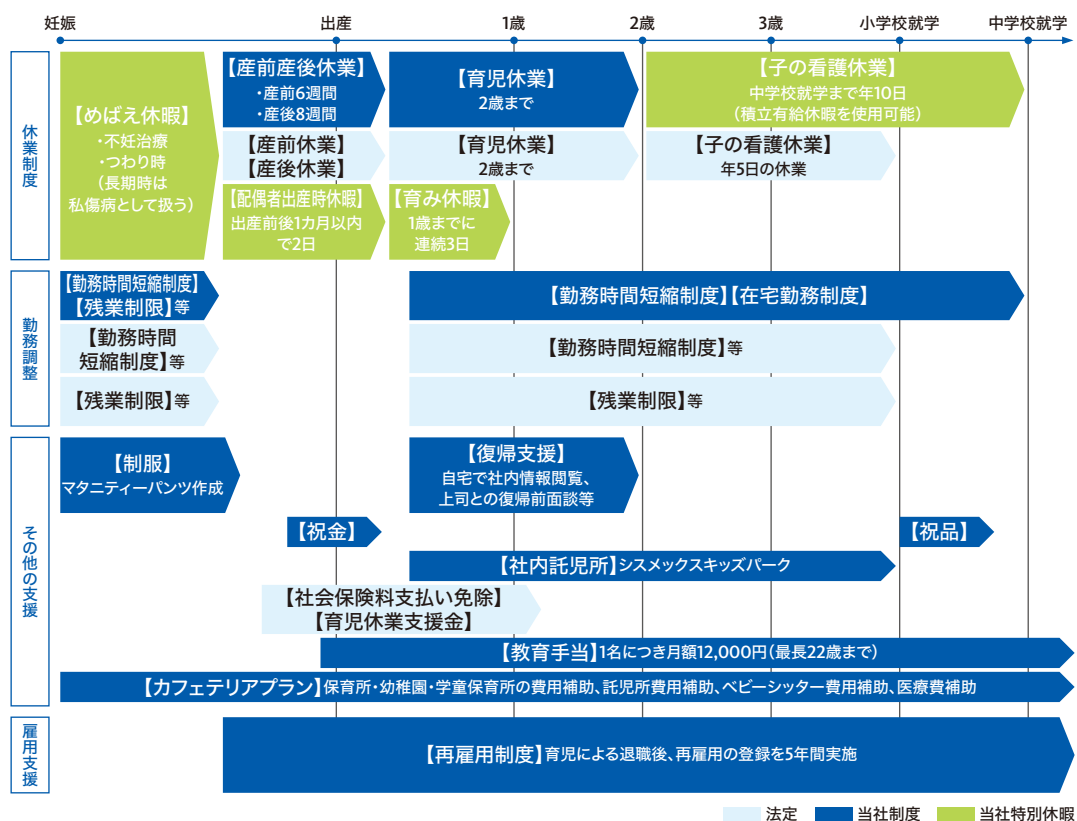
社内託児所「シスメックスキッズパーク」



次世代認定マーク「くるみん」

※ 次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業が「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定(くるみん)を受けることができる。

育児関連制度



対象範囲：正社員、有期雇用（派遣社員除く）

その他のワークライフバランス支援制度

介護や社会貢献活動などを支援

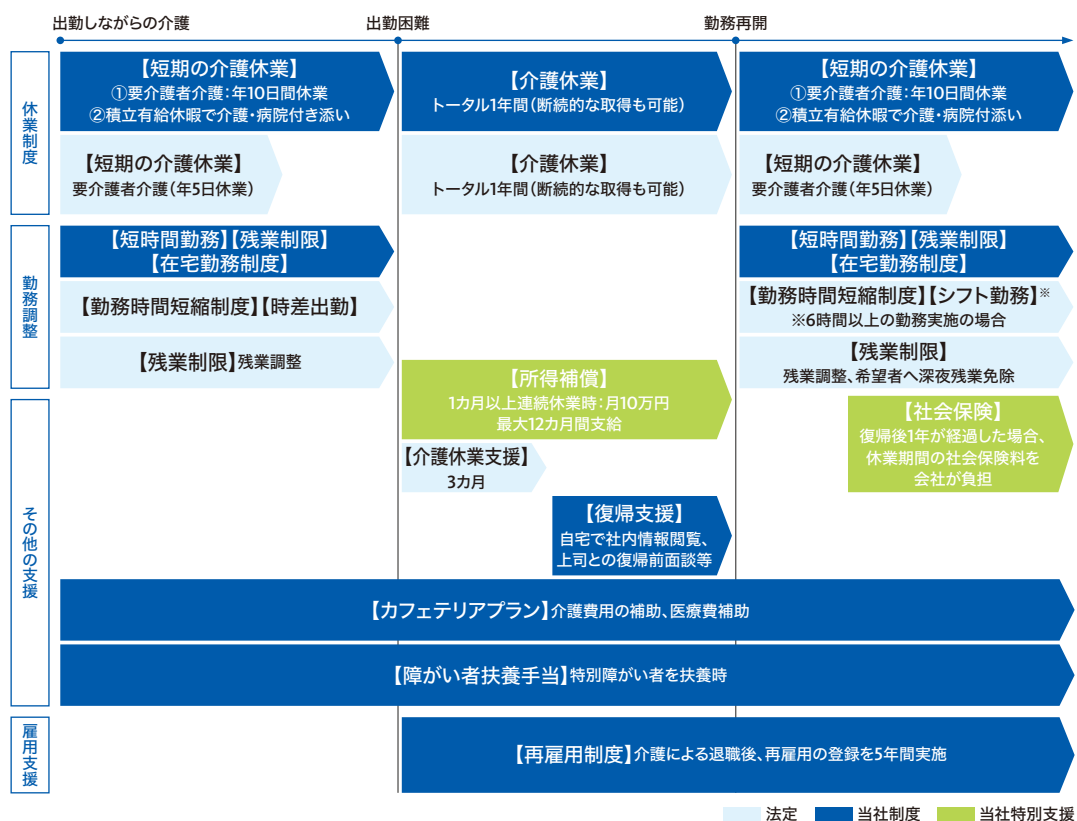
シスメックス株式会社はワークライフバランスを実現するための制度の一つとして、介護に関する各種制度を整備しています。家族の入院などで付き添いが必要になったときには、短期の介護休業と積立有給休暇を半日単位で最大40日取得でき、要介護者・要支援者のご家族のための在宅勤務制度も導入しています。

また、1カ月以上の介護休業による収入減や費用発生に備え、会社独自で介護休業補償金を支給する所得補償制度の他、介護でキャリアをいったん中断した従業員を再雇用する制度もあります。

これらの制度の存在意義や、突然の介護に備えて何をすべきかなど、介護と仕事の両立不安を解消するための説明会も行っています。

さらに、「ボランティア休暇」（年10日、2日までは有給休暇）、「（臓器提供などの）ドナー休暇」（1件につき5日）など、目的に応じて従業員が休暇を取りやすいようにさまざまなワークライフバランス支援制度を設けています。

介護関連制度



対象範囲：正社員、有期雇用（派遣社員除く）

休業後の職場復帰を支援

シスメックス株式会社では育児や介護で休業した従業員のスムーズな職場復帰のため、3カ月前から社内メールやイントラネットに接続できるタブレット端末、ノートパソコンを貸与し、ITを活用した支援制度を導入しています。これはリアルタイムで社内情報を入手し、職場とのコミュニケーションを可能とすることで、復帰時における戸惑いや職場ギャップの解消を目指したもので、利用開始時には所属部門の上司と面談する機会も設定しています。また、育児休業からの復帰準備セミナーも行っています。

▶ 従業員関連のデータはこちらをご覧ください。

その他グループ会社での取り組み

会社名	取り組み内容
シスメックス アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> フレックスタイム制度、在宅勤務制度の導入 法定以上の育児休暇制度の導入（父親、母親） ファミリーサポート制度の導入（子育て支援、家族休暇、家族が病気になった場合の外部機関によるサポート利用時の補助金支給）
シスメックス ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> フレックスタイム制度、在宅勤務制度の導入 親子ルームの設置 育児休暇制度の導入（父親、母親） 子育て支援制度（外部機関によるサポート利用時の補助金支給）
シスメックス 上海	<ul style="list-style-type: none"> フレックスタイム制度の導入
シスメックス アジア・パシフィック	<ul style="list-style-type: none"> フレックスタイム制度、在宅勤務制度の導入 子育て支援制度（医療保険補助、奨学金支給） 2日間のボランティア休暇を付与

マテリアリティ

魅力ある職場の実現

ダイバーシティの推進

ダイバーシティ&インクルージョン

取り組みの意義

シスメックスでは、「人材」を持続的な成長のための重要な経営資源の一つとして捉え、多様な人材が在籍する「ダイバーシティ」から、多様な人材が働きやすい環境を整備し受容する「ダイバーシティ&インクルージョン」を目指した取り組みを進めています。多様な価値観・考え・経験・能力のシナジー効果により、イノベーションの創出と価値の創造につなげていきます。

ダイバーシティ&インクルージョンの実現に向けて

シスメックス株式会社では、取締役 専務執行役員が管掌するダイバーシティ推進部門を設置し、多様性やLGBT*への理解などをさらに推し進める組織文化を醸成しています。例えば、情報発信や理解浸透のための取り組みとして、「ダイバーシティポータルサイト」をイントラネットに立ち上げています。また、ダイバーシティに関する意識調査を実施し、従業員の声を取り入れた施策を展開しています。

シスメックス アメリカでは、「アファーマティブ・アクションプログラム(差別撤廃プログラム)」に基づいた施策を実行してマイノリティ(少数派)に対する偏見や差別の解消を目指しています。

※ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を取った性的マイノリティの総称

多様な人材の確保

就職機会の均等化を目指して

シスメックス株式会社では、国籍・人種・性別・年齢・職歴・障がいの有無を問わず、人物本位で採用を実施しています。具体的には、就職が不利な状況に置かれている既卒学生や海外留学生などに対する就職機会の均等を図るために、いつでも応募できる通年採用を実施しています。さらに、世界中のどこからでも応募できるよう、海外での現地説明会や面接に加え、インターネットを通じたウェブ説明会やウェブ面接も実施しています。2019年度も前年度に引き続きインターンシップを実施し、海外の人材に当社を知ってもらうための施策を強化しています。

また、シスメックス アジア・パシフィックでは、2008年から公正な雇用慣行に関するTAFEP*の誓約書に署名し、従業員に研修を実施しています。

▶ 採用に関する方針についてはこちらをご覧ください。

※ TAFEP(Tripartite Alliance for Fair & Progressive Employment Practices)は2006年5月に、公平な雇用を推進するために設置された、政労使代表(政:シンガポールの人材開発省、労:全国労働組合会議、使:シンガポール全国使用者連盟)からなる機関。シンガポール国家経営者連盟(SNEF)、全国労働組合会議(NTUC)の代表が共同委員長を務める。

障がい者雇用を推進

シスメックスでは、障がい者雇用を進めています。それぞれの適性や能力を活かして、長期的に活躍できる雇用形態で就業しており、シスメックスの日本国内関係会社における2019年度の障がい者雇用率は2.3%です。

2017年4月に、特例子会社*である「シスメックスハーモニー株式会社」を兵庫県神戸市に設立しました。シスメックスハーモニーでは、身体、知的、精神に障がいを持つ方々が個々の特性やハンディキャップにあわせて活躍できる業務や職場環境を準備し、「障がいの有無に関わらず、誰もが安心して働く喜びを感じながら、いきいきと活躍し、ともに成長できる、笑顔あふれる職場」を目指しています。

シスメックス ヨーロッパにおいても、障がい者の自立支援に取り組んでいる団体と連携し、ドイツ試薬生産工場の製造ラインでの梱包作業などを障がいを持つ方々に委託しています。作業の方々と業務の目的を共有するとともに、定期的なトレーニングと従業員によるサポートを実施することで、高いモチベーションを維持して作業に取り組んでいただいています。

※ 障がい者の雇用のために特別の配慮をしていると公共職業安定所長から認定を受けた子会社。親会社の就業規則とは別に、障がい者の労働能力や就業条件を配慮した就業規則や設備環境を整備でき、障がい者の職域拡大を図ることが容易になる。



シスメックスハーモニーでの作業の様子

高齢者雇用—定年退職者再雇用制度

シスメックス株式会社では定年を60歳とし、高齢者雇用を推進するための制度として65歳までの定年退職者再雇用制度を運用しています。2019年度は、定年退職者のうち、社内ルールに基づいて31名を再雇用しました。

女性活躍推進

シスメックス株式会社は、多様性を受け入れ、従業員一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境整備の一環として、社内託児所設置などの整備に取り組んできました。また、女性活躍推進法の施行に基づき、2016年4月に「女性活躍推進 行動計画」を制定し、女性リーダーの育成や多様な働き方を促進しています。

そのような取り組みの結果、シスメックス株式会社の女性社員比率^{※1}は2005年度19.9%から2019年度は32.3%まで向上しました。女性マネジメント比率^{※2}も2005年度2.4%から2019年度7.8%まで向上しました。

▶女性マネジメント比率(シスメックス株式会社)についてはこちらをご覧ください。

また、グループ全体の女性マネジメント比率を非財務目標として設定し、モニタリングしています。2019年度は、グループ各社での多様な働き方の推進やマネジメントスタイルの提唱、キャリアを考える機会の提供などに取り組んだ結果、アジア圏を中心に女性マネジメント比率が改善、前年度から0.3ポイント上昇し15.5%となりました。引き続き、ライフイベントなどに左右されにくい就業環境整備に取り組み、女性活躍推進施策を展開していきます。

※1 就業者数でカウント

※2 課長級以上の者

▶非財務目標の進捗はこちらをご覧ください。

▶従業員関連のデータはこちらをご覧ください。

女性活躍推進法に基づく優良企業認定マーク「えるぼし」の最高位を取得

シスメックス株式会社では、これまでも従業員一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境の整備を行ってきました。2016年9月には厚生労働省が女性活躍に関して定めた5つの基準を全て満たしたことにより、優れた取り組みを行う企業に与えられる「えるぼし」の最高位である「3段階目」を取得しました。

▶ 女性活躍推進法(厚生労働省)についてはこちらをご覧ください。☞



女性活躍推進法に
基づく優良企業
認定マーク「えるぼし」

理解の浸透と実行

ダイバーシティ教育

シスメックス株式会社では、キャリア、仕事とプライベートの両立、異文化理解などの幅広いテーマについて、自由な意見交換や部門を超えたコミュニティづくりの場としてダイバーシティ・ラウンドテーブルを開催しています。2019年度は、「LGBTと多様性」「障がい者雇用とダイバーシティ」「ベジタリアンとハラール食」「両立支援について考えよう」などを展開しました。

シスメックス アメリカやシスメックス ヨーロッパなどにおいてもダイバーシティ教育の実施やダイバーシティを推進するための従業員グループをつくり、理解と浸透に努めています。



国際女性デーの集まり(シスメックス ブラジル)

マテリアリティ

魅力ある職場の実現

人材の育成

人材育成

グローバル人材育成の推進

グローバルに事業を展開するシスメックスのグループ従業員は約9,200名になり、海外従業員比率は約6割となっています*。このような状況において、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践し、世界中の人々に安心をお届けしていくためには、個々の人材の能力向上はもちろんのこと、多様な人材同士がコミュニケーションを通じて、互いに価値観を共有し、気づきを得ることで、新たな価値や文化を探究・創造していくことが重要であると考えています。

その一環として2014年度にグループ共通の「グローバル人材開発体系」を制定し、事業活動および職場での一体感の醸成や次世代の人材育成、グループ内のネットワーク強化、異文化の相互理解のためのさまざまな施策に取り組んでいます。

※ 2020年3月末時点

4つのコンセプトに基づく人材育成

シスメックス株式会社では、取締役 専務執行役員が管掌する人材開発部を設置し、人材育成を推進しています。「研修と評価と仕事(成果発揮)を接続」「シスメックスグループのグローバル化の促進」「継続的な人材開発投資」「人を育て、人が育つ会社」の4つのコンセプトに基づき、選抜型研修、階層型研修、自律選択型研修を研修体系の軸とした計画的・段階的な人材育成に取り組んでいます。

また、新人事制度導入に向けた従業員のキャリア開発の充実と自律的学習の推進とともに、働き方改革に伴う研修スタイルの変更を考慮したオンライン学習を積極的に導入しています。2019年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部研修の実施が翌年度へ先送りとなりましたが、1人当たりの平均教育時間は27.7時間、約1,900名の従業員が研修を受講しました*。今後もさらにオンライン学習を活用した研修を進めていく予定です。

また、社内外の多様な文化や価値観を持つ人々が集うための施設であるグローバル コミュニケーション センター(GCC)を兵庫県芦屋市に設置し、人材開発体系に基づく各種研修、部門横断型の勉強会、合宿などへ活用しています。

※ オンライン学習を含む

▶ [研修に関するデータについてはこちらをご覧ください。](#)

研修体系の3つの軸

研修区分	目的
選抜型研修	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルリーダーの育成 ・将来的な経営人材の育成
階層型研修	<ul style="list-style-type: none"> ・企業理念、当社歴史の理解深化 ・階層ごとに最低限必要とするマネジメントや課題解決などの知識・スキルの習得 ・部門間コミュニケーションの促進
自律選択型研修 (Sysmex College)	<ul style="list-style-type: none"> ・業務遂行における実践的な知識・ノウハウ・スキルの習得 ・ビジネス・マネジメント各種知識の習得

人材育成プログラム事例

会社名	プログラム名・施策名	目的・概要
シスメックス株式会社	グローバル人材交流プログラム	グループ会社間の従業員の交流を促し、互いに理解を深めることで関係強化を図る。
	グローバル アプレンティスプログラム	若手社員を海外グループ会社へ6カ月間派遣し、実務経験を通してグローバルで活躍できる人材を育成する。
	ものづくりトレーニングセンターでの研修	シスメックスの機器製品の製造に関わる知識・技能を習得する。
	R&D革新活動	研究開発者のチーム力や提案力の強化を図る。
シスメックス 国際試業	ものづくりプロフェッショナル育成活動	生産改革活動の一貫として「ものづくり道場」を設置。新人育成の場としてトレーニングを実践。
シスメックス アメリカ	Systemx University	全従業員対象のSNS(LinkedIn)や外部教育機関を利用したトレーニングで、財務会計、マネジメント、戦略、マーケティング、事業、技術、販売、管理等のスキル習得・強化を図る。
	Systemx Management Academy	新任管理職などを対象とした半年間の選抜型研修。シスメックスの経営の役割と責任に関する洞察力など、マネジメントスキルの強化を図る。
シスメックス ヨーロッパ	Systemx EMEA Campus	EMEA地域の全従業員を対象に、研修スペースとオンラインを含む多種トレーニングプログラムを提供する。一般的なビジネススキルから専門的な内容まで幅広いテーマでの講義やワークショップを実施。リーダー育成、スキル向上と同時に社内ネットワーク促進を目的とする。
	Systemx Academy	製品関連知識と「トレーナー向けの訓練」プログラムをテーマに、リーダーシップ、チェンジマネジメント、社内連携、チーム運営などのスキル向上を目的とする。
シスメックス 上海	Systemx Shanghai University	全従業員を対象としたオンライン・トレーニングで、従業員の成長支援を目的に2019年度より開始。
シスメックス アジア・パシフィック	LinkedInラーニング	全従業員対象のSNS(LinkedIn)を利用したオンライン・トレーニングで、マネジメントやリーダーシップ、クリティカル・シンキング、ビジネス分析力、データ分析力、Microsoft Excel/Accessなどのスキル習得・強化を図る。



異文化体験研修



施設見学や業務体験を通じたグループ会社間の交流



10周年を迎えたSystemx Academy

魅力ある職場の実現

健康経営の推進

職場の安全・衛生の確保

グローバルコンプライアンスコードに「職場の安全・衛生の確保」を明示

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードにおいて「8-4 職場の安全・衛生の確保」に取り組むことを明示し、誰もが安心して働けるよう、各国・地域の安全・衛生関連法令等を遵守するとともに、心身の健康の維持向上に取り組み、安全で快適な職場づくりを推進しています。

▶ グローバルコンプライアンスコードについてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 631KB) [📄](#)

シスメックス健康経営宣言の策定

シスメックスは、グループ企業理念を実践する基盤となる従業員が、心身ともに充実した人生を歩むために、経営課題の一つとして健康経営を推進してきました。これまで行ってきた安全衛生活動・健康増進・両立支援などの施策展開をさらに加速させるため、2020年4月に「健康経営宣言」を策定しました。「健康経営宣言」では、労働安全衛生、心身の健康などの重要な課題(健康経営マテリアリティ)を設定し、健康増進施策や、多様性が尊重される職場環境の整備を継続的に展開し、より魅力ある職場づくりの実現を目指します。

▶ シスメックス健康経営宣言についてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 139KB) [📄](#)

労働安全衛生の体制と推進

シスメックスでは従業員の安全衛生を確保する指針として「安全衛生規程」を定め、安心して働ける職場づくりに努めており、国内のグループ会社を対象とした中央安全衛生委員会を設置し年に2回開催しています。同委員会では国内のグループ会社の安全衛生・健康管理体制の強化・充実を図るための方針・目標を策定する他、各事業所の安全管理状況の把握、改善すべき施策の検討を行い、結果はリスクマネジメント委員会を通じて経営層へ報告しています。また、労働災害度数率と労働災害強度度を非財務目標として設定し、モニタリングしています。

2019年度は安全衛生目標に「休業4日以上労働災害1件以下」「生産性向上を目指した健康経営の推進」を掲げ、各社・各事業所の安全衛生委員会が中心となって取り組みました。各事業所で定期的開催される安全衛生委員会では、職場巡回で把握したリスクの排除など、リスクアセスメントの考えに基づき、短期から長期の視点で未然に災害を防止する対策に取り組んでいます。

また、事故や急病人の発生時の適切な応急措置や退避方法、危険性のある機械や原材料の取り扱い方などに関する安全教育や、大規模災害を想定した総合消防訓練、AED使用方法の研修、市民救急救命士講習なども定期的実施しています。特に災害時における迅速な従業員の安全確保と安否確認、事業所などの被災や製品の供給状況、お客様の被災に関する情報の共有など、初動対応に関する訓練を適宜実施しています。

2019年度は、工場でのけがによる休業などにより労働災害度数率は0.86となりました。引き続き、安全衛生委員会の活動に加え、KYT(危険・予測トレーニング)活動や、外部講師による教育訓練などの対策を実施していきます。

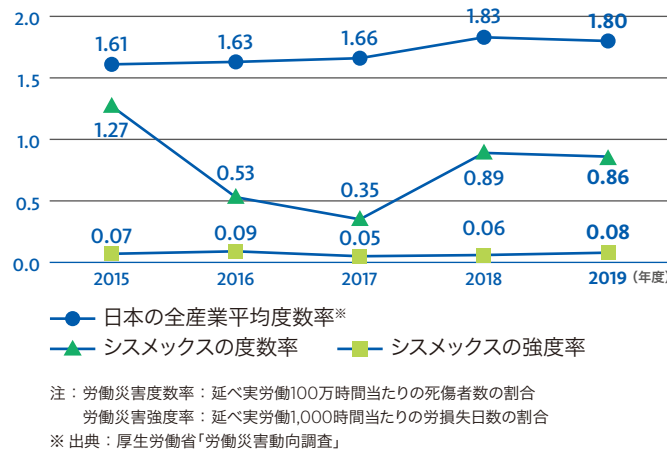
シスメックス ブラジルでは、労働安全衛生マネジメントシステムの国際的な規格であるISO 45001の認証を取得しています。

▶ 非財務目標の進捗はこちらをご覧ください。

▶ 労働安全衛生に関するデータの詳細はこちらをご覧ください。

▶ 新型コロナウイルスに関する従業員への取り組みについては「リスクマネジメント - 事業継続にかかわるリスクへの対応」をご覧ください。

労働災害度数率/強度率(シスメックス株式会社)



過重労働の防止

過重労働は心身の健康を妨げる要因となることから、長時間労働の防止にも取り組んでいます。関連法令の遵守とともに、厚生労働省の指針よりも厳しい社内基準を設け、労働時間が社内基準を上回った場合は上長への連絡と自己チェック表の提出を求めて業務改善を図ります。また必要に応じて産業医との面談の機会を設けています。労働時間管理については、ICカードによる入退室管理とパソコンの起動と終了の時刻ログから労働時間を把握しています。

心身の健康の保持・増進

シスメックス株式会社では、定期健康診断に加え、人間ドックや女性特有のがん検診などを実施し、疾病の早期発見に努めています。医療機器を取り扱う当社の業態上、業務によっては感染性のある物質などに接する機会もあることから、このような業務の従事者に対しては、法定の特殊健康診断に加え、B型・C型肝炎検査を含む独自の健康診断を年2回の頻度で実施しています。また、「がん対策推進企業アクション※1」および「知って、肝炎※2」パートナー企業に登録および肝炎医療コーディネーターの教育を受けた従業員を育成する他、「兵庫県がん検診等受診率向上推進協定」を締結しています。

また、従業員のメンタルチェックやハラスメントに関する状況把握を行う「ココロの健康診断」を年1回実施し、経年的に結果を把握し、職場改善を図っています。

健康相談に関しては、全社的な窓口を設け、産業医や保健師と面談できる体制を整えており、メンタルヘルスについては外部相談機関(EAP)も設置しています。

また、健康保険組合と協働で、ウォーキングイベントや勤務時間内の特定保健指導の面談も実施しています。

健康維持のための福利厚生施設として、ソリューションセンターの敷地内にグラウンドやテニスコート、フィットネス設備を備えた体育館などを設け、スポーツ施設利用補助制度なども継続しています。また、従業員自身に健康への関心を持ってもらうためのイベント・セミナーや、健康の増進のためのプログラムが含まれる「カフェテリアプラン※3」、社員食堂でのヘルシーメニュー提供も実施しています。

このようなさまざまな取り組みや国内グループ会社を含む活動体制が評価され、2020年3月に、経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人～ホワイト500～」の4回目の認定を受けました。



※1 厚生労働省の委託によるプロジェクト。職場での取り組みを通して、日本のがん検診受診率を50%に引き上げることを目指す。

※2 肝炎に関する知識や肝炎ウイルス検査の必要性をわかりやすく伝えることで、早期発見・早期治療の実現を目指す厚生労働省のキャンペーン

※3 福利厚生プログラムシステムの一つ。会社が毎年、従業員に「カフェテリアポイント」を提供し、自らの意思によって特定の福祉(ワークライフバランス向上)のために費やすことができる。

海外のグループ会社では従業員の健康確保に向けたさまざまな施策に取り組んでいます。

会社名	取り組み内容
シスメックス アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> ・社内フィットネスルームの設置 ・フィットネス手当・健康手当の支給 ・健康診断やインフルエンザ予防接種費用の補助
シスメックス ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> ・社内フィットネスルームの設置 ・スポーツや栄養管理のプロから指導を受けることができる健康管理プログラム、ヨガなどのスポーツプログラムの提供 ・ストレスマネジメントトレーニングの提供 ・カフェテリアでのランチ、フルーツの無料提供
シスメックス 上海	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィス内にCO₂、PM2.5値を下げる設備を導入
シスメックス アジア・パシフィック	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツクラブへの加入費用補助 ・オフィス内に観葉植物を設置 ・カフェテリアでのフルーツ無料提供



ランニングイベント
(シスメックス ニュージーランド)



サイクリングフェスティバル
(シスメックス ロシア)

魅力ある職場の実現

労働者の権利の尊重

組合結成の自由と団体交渉の権利の尊重

国連グローバル・コンパクトへの参加とILO 中核的労働基準の支持

シスメックスでは、国連グローバル・コンパクトへの参加とILO 中核的労働基準の支持に基づき、組合結成や団体交渉といった従業員の権利を尊重しています。

シスメックス株式会社の労働組合であるシスメックスユニオンには役職者や一部の管理職を除いた全従業員が加入し、その割合は60%です(2019年度)。中国の済南シスメックス、シスメックス ベトナム、ハイフェンバイオメッドなど海外のグループ会社でも組合を結成しています。

労使の対話

グループ各社で労使の対話を実施

シスメックス株式会社では毎年シスメックスユニオンとの団体交渉を実施しています。2019年度には定例の労使協議会に加え、適宜労使間協議を行い、健康経営の推奨や働き方改革を含めた労務時間管理、福利厚生制度などの各施策について議論しました。

このような対話は各社でも実施しており、シスメックCNAでは各部門の代表者で構成される社員会を結成し、職場環境や福利厚生などについて定期的に労使協議の場を設けています。

人権の尊重


人権の尊重

人権の尊重に関する方針と取り組み

国連グローバル・コンパクトへの参加と世界人権宣言、ILO 中核的労働基準の支持

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコードに「8. 人権の尊重と安全・衛生の向上」を掲げ、全ての従業員の人権を尊重した企業経営、職場環境づくりに取り組んでいます。これは「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等である」ことを規定した世界人権宣言、仕事で守られるべき最低限の労働基準を定めたILO 中核的労働基準の趣旨に則ったものです。このような考えに実効性を持たせる狙いから、差別、ハラスメント（嫌がらせ）、強制労働・児童労働を禁止するために遵守すべきルール、行動のガイドラインを明文化するとともに、さまざまな研修を通して従業員の啓発を行っています。2011年2月には国連グローバル・コンパクトに参加し、「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する10原則への企業姿勢を明らかにしました。

また、ヒトゲノム・遺伝子解析研究および臨床研究にあたっては、関連法規制などへの対応を行うとともに、被験者の人権への配慮を徹底するために社内に委員会を設置し、研究倫理に関する具体的な規程を設けています。

▶ グローバルコンプライアンスコードについてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 631KB) 

▶ 研究倫理についてはこちらをご覧ください。

人権リスクの特定(人権デュー・デリジェンス)

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコードの「8.人権の尊重と安全・衛生の向上」に基づき、自社内にとどまらず、サプライチェーン全体の事業活動における人権への影響を特定し、負の影響を防止・緩和していく「人権デュー・デリジェンス」の取り組みが必要であると考えています。具体的には、取引先に対するCSR調査項目の中に「強制労働・児童労働の禁止」「男女・障がい者・人種等に対する差別の排除」などを盛り込み、シスメックスの活動が人権侵害に関与・加担することのないよう、人権への影響を事前に把握し、予防的に対処するしくみを整えています。またシスメックスでは「英国現代奴隷法」が発効したことを受け、シスメックス UKがホームページに声明文を公開するなど、同法に適正な対応をしています。

▶ サプライチェーンの評価・管理についてはこちらをご覧ください。

人権に関する相談・通報制度

シスメックスでは、国内外で内部通報制度を設置し、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントをはじめとする人権相談を受け付けています。

▶ 内部通報制度についてはこちらをご覧ください。

人権の尊重を理解するための教育・啓発

人権侵害防止に向けた教育を実施

シスメックスは、ハラスメント(嫌がらせ)の防止や、労働に関する正しい知識の浸透などを目的とする教育を実施し、人権侵害の防止に努めています。

2019年度は一部の国内グループ会社も含めた新任役職者向け研修で、LGBT*を含むハラスメント、労務管理に関する研修を約140名に行った他、新入社員、中途採用者に対しても研修を実施しました。

※ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を取った性的マイノリティの総称

社会貢献活動

社会貢献活動

シスメックスは、Sysmex Wayの行動基準の「社会に対して」および「社会貢献方針」に基づいた活動を行うことにより、豊かな健康社会づくりと活き活きとした地域社会づくりに貢献していきます。

▶ [社会貢献方針はこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 98KB\)](#) 

グループ一丸となった医療への貢献

シスメックスは、2018年に創立50周年を迎えたことを機に、社会貢献方針に基づいたグローバル統一テーマ「より健康な社会を目指す」を掲げ、グループ全体で一体感を持った社会貢献活動を推進してきました。2019年は6月に「Sysmex Gives Back Challenge」、10月に「Sysmex Gives Back Day」と2度のグループ統一プログラムを実施しました。

「Sysmex Gives Back Challenge」では、世界献血者デー、世界環境デーに合わせた活動をテーマとし、献血活動をはじめ、植樹活動やノーマイカーデーの推進、プラスチックゴミ削減の啓発活動などさまざまな活動を各地域で行いました。

「Sysmex Gives Back Day」では、「より健康な社会を目指す」をテーマとした活動を推進し、がん撲滅・がん患者支援のためのチャリティラン・チャリティウォークへの参加や、小児患者や孤児への支援などを行いました。

両イベントを通じて世界中で延べ4,300人以上の従業員が活動に参画しました。今後もグループ一丸となって豊かな健康社会の実現に貢献していきます。



Breast Cancer Walk (シスメック スアメリカ)



自転車の寄贈 (シスメックス トルコ)

献血活動を通じた医療への貢献

シスメックス株式会社は、2014年度から「献血サポーター企業」に登録し、積極的な献血活動を行っています。

世界各地でも定期的な献血活動を行っており、2019年度はグループ全体で約800名の従業員が献血に参加しました。



シスメックス インドネシア



シスメックス トルコ



シスメックス サウスアフリカ

新型コロナウイルス感染症への取り組み

シスメックスは、新型コロナウイルス発生当初、マスクや防護服・保護ゴーグルの物資不足が深刻化していた中国地域に対して、マスクをはじめとした数万単位の支援物資をグループ各社から集め、現地へ発送し支援を行いました。

また、ブラジルなど米州の工場では、試薬工場で製造した自家製消毒液を従業員に配布するとともに、慈善団体への寄付も行っています。



自家製消毒液の製造 (シスメックス ブラジル)

社会貢献ポイント制度

シスメックスは、社会貢献方針で従業員のボランティア活動支援を表明するとともに、ボランティア休暇制度を設けて制度面でも支援するなど、従業員の主体的なボランティア活動を奨励しています。

活動を促進するため、従業員が地域のボランティア活動に参加したり、会社主催の社会貢献活動に参加するとポイントが付与される「社会貢献ポイント制度」を設け、ポイントに応じて会社が寄付を実施したりしています。この制度には国内グループ従業員の44%、1,621名が参加し、その結果、約137万円を寄付することができました。また、社会貢献ポイント制度の寄付先の一つであるNPO法人ジャパンハート主催の「小児がん患者とその家族をキザニア甲子園に招待するイベント」や「小児病棟でのプラネタリウムイベント」に、当社従業員がボランティアとして参加し、参加者の付き添いや写真撮影などのサポートを行いました。

各事業所では従業員が企画した社会貢献活動を行っており、古本や古着などをNPO法人などへ寄付する活動などを実施しました。



(左) © UNICEF/UNI150956/Asselin
(中央) © UNICEF/UNI108970/Asselin
(右) © UNICEF/UNI179689/Markisz
提供：(公財)日本ユニセフ協会

国内グループ従業員1,621名が参画し、
約137万円を寄付

抗マラリア薬:90,720錠(ユニセフ)、小児がんを抱える子どもと家族の
旅行・外出への医療者付き添い支援など(ジャパンハート)



小児病棟プラネタリウムイベントでの
ボランティア活動



キザニア甲子園でのボランティア活動

第9回神戸マラソンに協賛

シスメックス株式会社は、阪神・淡路大震災からの復興に手を差し伸べていただいた皆様への感謝の気持ちを込めて毎年神戸で開催されている「神戸マラソン」に、第1回大会から継続して特別協賛しています。

2019年11月に開催された第9回大会にも特別協賛し、ランナーゼッケンなどを提供する他、同時開催の「神戸マラソンEXPO」にも出展しました。また、ボランティアによる大会運営支援を実施しました。



従業員による給水ボランティア

地域の方々との交流イベントを開催

シスメックス株式会社では、地域住民の方々を当社施設にお招きし、交流を深めるイベントを毎年開催しています。

2019年10月にはテクノパークを開放し、近隣住民の方々に散策を楽しんでいただくイベントを開催し、約600名にご来場いただきました。当日のメインイベントとしては血液、がんゲノムをテーマとした「健康セミナー」や日本文化を体感していただく「呈茶席」などを開催しました。

また、神戸市から借り受けている歴史的建造物「みなと異人館」の一般公開を実施しています。2019年は写真展やジャズライブを行い、約200名の方々にご来場いただきました。



テクノパークフェスタ(シスメックス株式会社)

テーマ	活動内容	国・地域
保健・医療	・がん撲滅・がん患者支援のための チャリティラン・チャリティウォークへの参加	米国・カナダ・フランス
	・"Make a Wish"財団への寄付 ・映画鑑賞やランチを通じた小児患者との交流	シンガポール
	・小児患者へのパジャマなどの物品寄付	ニュージーランド
	・障がい者を支援するための寄付活動	ニュージーランド・チェコ・ スロバキア・オーストラリア
	・病院の患者さんへの本の寄付	韓国
次世代育成・福祉	・恵まれない子ども・孤児への継続的な物資支援 例：生活物資の寄贈 ランチを持たない学童へのランチ提供 古着寄贈	トルコ・ポーランド・ 南アフリカ共和国・ ニュージーランド・インドネシア
	・孤児を招いたイベントの開催 例：ランチ交流イベント、ラマダン断食を終えるディナー提供 科学技術に関する学習機会の提供	マレーシア
	・恵まれない子どもへの寄付活動・医療支援 ・チャリティランへの参加	ベトナム

テーマ	活動内容	国・地域
文化・スポーツ振興	・フィギュアスケート三原舞依・坂本花織選手との所属契約を締結 ・サッカーリーグ「ヴィッセル神戸」に協賛	日本
国際協力・交流	・JICA研修生の受け入れによる国際協力事業への貢献 (1994年からの累計:計120カ国900名以上)	日本
まちづくり	・国際NGO「Habitat for Humanity」に向けた、 低所得者向け住宅の修復費用寄付および修復支援活動	米国
	・ホームレスへの衛生用品・食料提供	オーストリア・フランス
	・フードバンクの支援	スペイン

▶ 環境関連の社会貢献活動は、こちらをご覧ください。



チャリティドライブ
(シスメックス サウスアフリカ)



ディナーを提供するイベント
(シスメックス マレーシア)



「Habitat for Humanity」支援活動
(シスメックス アメリカ)

環境

環境への配慮	44
環境マネジメント	45
製品ライフサイクルにおける環境配慮	49
事業所活動における環境負荷低減	53
生物多様性保全	58



マテリアリティ

環境への配慮



なぜ重要か

気候変動の緩和をはじめ、水資源・鉱物資源などの資源利用、生物多様性の保全など、地球環境の持続可能性は喫緊の課題となっています。また、パリ協定の発効や「持続可能な開発目標(SDGs)」などにも見られるように、環境問題は全世界で取り組むべき重要課題であり、とりわけ企業が果たす役割への期待が高まっています。

シスメックスはグローバルに事業を展開する企業として、深刻化する地球環境問題への対応を優先的に取り組むべき課題の一つと認識しています。気候変動による大規模な自然災害などは原料調達や製造機能の停止など経営上の重要なリスクと捉えるとともに、環境への配慮は地域社会との共生やステークホルダーからの信頼確保につながると考えています。

マネジメントアプローチ

【方針】

シスメックスは「ヘルスケア分野にかかわる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献」という「環境方針」に基づき、長期的な環境マネジメントの指針として、2025年度を最終年度とする「シスメックス・エコビジョン2025」を策定し、製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーン全体における環境保全を推進しています。

▶ 環境活動に関する方針はこちらをご覧ください。

【体制】

取締役 常務執行役員が務める環境マネジメントオフィサーの統括・管理の下、環境管理委員会を中心にグループで環境マネジメントに取り組んでいます。

【目標(2025年度)】

CO₂排出量の削減※

- ・ 機器製品使用時において 15%削減
- ・ 事業活動において 50%削減
- ・ 出荷物流において 15%削減

水消費量の削減※

- ・ 機器製品使用時において 15%削減
- ・ 事業活動において 15%削減

資源循環の推進

- ・ 事業活動においてリサイクル率 93%

※ 基準年度を2016年度とする原単位目標

▶ 目標の詳細はこちらをご覧ください。

関連するSDGs



マテリアリティ

環境への配慮

環境マネジメント

環境に関する方針

シスメックスでは、「環境方針」およびグローバルコンプライアンスコード「11. 地球環境の保護」に基づき、環境に配慮した事業活動を行っています。

▶ 環境方針はこちらをご覧ください。(PDF形式 / 132KB) 

▶ グローバルコンプライアンスコード「11.地球環境の保護」もあわせてご覧ください。(PDF形式 / 631KB) 

シスメックス・エコビジョン2025

「シスメックス・エコビジョン2025」の制定

シスメックスでは2018年5月、「シスメックスグループ長期経営目標」の策定にあわせて、「シスメックス・エコビジョン2025」を制定しました。これは、シスメックスが2025年に向けて目指す長期環境ビジョンであり、これまで以上に、開発・生産・販売・サービス&サポートなどの製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーン全体の環境保全を推進するものです。

長期環境ビジョン

製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーンにおける、2025年度までの環境目標を設定し、地球環境の保全に取り組みます。

1. CO₂排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献します。
2. 資源消費の削減と資源循環を推進し、地球資源の持続可能性向上に貢献します。
3. 事業活動と自然環境のつながりを認識し、生物多様性の保全に貢献します。

長期環境目標 (2025年度)



※ 基準年度を2016年度とする原単位目標

▶ シスメックス・エコビジョンの進捗はこちらをご覧ください。

▶ 環境データの詳細はこちらをご覧ください。

TCFD提言への対応

近年、気候変動が与える影響は、金融市場において大きなリスクとなってきました。2015年12月に金融システムの安定化を図る国際組織、金融安定理事会が「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)」を立ち上げ、2017年6月には気候関連の「リスク」と「機会」が企業の財務に及ぼす影響を開示するよう、最終提言を行っています。

2021年1月、シスメックスはTCFDの提言に賛同し、そのフレームワークに基づき、以下の情報について整理を行いました。

1. ガバナンス

▶ 気候変動リスクのガバナンス体制については、こちらをご覧ください。

2. リスクマネジメント

環境マネジメントシステムの中で事業活動が環境に与える影響を、「法令遵守」と「環境への影響」の2つの観点から毎年評価しています。また、気候変動に関してTCFDの提言を踏まえ、気候関連のリスクと機会のアセスメントを行い、環境管理委員会および代表取締役が議長を務める経営会議で議論しました。これらを通じて、リスクの低減および事業機会の創出に取り組んでいます。

また、リスクマネジメント体制の中で、環境や気候変動以外のリスクも含め包括的なリスクアセスメントを2年に1回実施しています。

▶ リスクマネジメント体制についてはこちらをご覧ください。

3. リスクと機会

TCFD提言のフレームワークに基づき、代表取締役が議長を務める経営会議で気候変動がもたらすリスクと機会を特定しています。2020年12月には、内容の見直しを実施しました。

リスク	シナリオ	財務影響		取り組み
		2°C	4°C	
移行 リスク	・法規制の変化により、特定の物質や技術の使用が禁止され、製品供給が困難または高額な代替品が必要となる	H	L	・各地域の統括拠点を中心に品質保証・薬事部門を設置し、専任スタッフが各国の法規制に対応
	・プラスチックの使用量削減を含めた環境負荷の低い素材や技術への移行に伴い研究開発コストや設備投資が増加する	M	L	・病院検査室の要求や市場・業界動向を踏まえた製品・技術開発
	・エネルギーコストや原材料コストが増大する	M	L	・省エネルギー対策、設備の効率化 ・再生可能エネルギーの導入
	・顧客の環境意識の変化により、当社製品の環境負荷に対して批判が生じ需要が低下する	L	L	・顧客の声を製品開発や品質改善に活用するしくみ(VOC: Voice of Customer)の構築
物理的 リスク	・大規模な自然災害により製品やサービスの安定的な供給が困難になる	M	H	・事業継続計画(BCP)を策定し、原材料の調達先や供給体制、輸送ルートなどリスクの分散化を実施
	・干ばつに伴う地域的な水不足により製品の安定的な供給が困難になる	L	M	・水リスクを定期的に監視するとともに、事業継続計画(BCP)を策定し、リスクを低減

機会	シナリオ	財務影響		取り組み
		2°C	4°C	
資源の効率	<ul style="list-style-type: none"> より効率的な輸送手段の利用やIoT活用によりオペレーションが最適化される 梱包や製品設計の見直しにより、原材料コストや廃棄物量が低下する 	M	L	<ul style="list-style-type: none"> 物流の多様化に対応した物流プロセス・体制の見直しやリモートサービスによるCO₂削減の推進 梱包の資材や形態の見直しによる省資源化
エネルギー源	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー化によるエネルギーコストの削減や低炭素エネルギーへのシフトによる社会的評価が向上する 	M	L	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー対策、設備の効率化 再生可能エネルギーの導入
製品およびサービス	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の購入意識の変化により、環境配慮製品の購入が促進される 長期的な疾患動向の変化により新たな検査機会が創出され、検査需要が拡大する 	M	M	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した製品開発 マラリアなどの感染症対策に寄与する製品開発
市場	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動への取り組みと情報開示により金融市場で評価・期待が高まる 	M	L	<ul style="list-style-type: none"> TCFD対応をはじめ、シスメックスサステナビリティデータブック等による環境に関する情報開示
レジリエンス(回復力)	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害発生時における製品・サービスの安定供給により、顧客からの信頼が向上する 	L	M	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな供給体制、原材料の複数調達によるバックアップ体制の構築

※特定したリスクと機会が及ぼす財務影響は、より厳しい対策をとる2°Cシナリオ、現状を上回る温暖化対策をとらない4°Cシナリオについて分析(H:High, M:Middle, L:Low)

環境マネジメントシステム

グループ環境マネジメント体制

シスメックスは、グループ各社の責任と役割を明確化した「グローバル環境マネジメント規程」を制定し、常務執行役員が務める環境マネジメントオフィサーの統括・管理の下、環境管理委員会を中心にグループで環境マネジメントに取り組んでいます。環境目標はグループ経営計画の一部に統合し、取締役会の監督と執行役員制度による意思決定スピードを高めた業務執行を行っています。

ISO 14001認証の取得を推進

シスメックスでは、グループの主要な関係会社において環境マネジメントシステムの国際規格ISO 14001の取得を進めています。2020年4月末現在、グループ17社で認証を取得し、認証取得拠点の売上比率は68%となっています。

また、一部では活動の進捗状況や問題点をグループとして把握しマネジメント活動を強化していくために環境活動を一元化し、シスメックス株式会社、シスメックス国際試薬、シスメックスRA、シスメックスメディカの4社9拠点で、統合認証を取得しています。この結果、環境経営に関わる情報を体系的に共有することが可能となりました。

ISO 14001 認証取得状況

地域	会社名
日本	シスメックス株式会社※、シスメックス国際試薬、シスメックスメディカ、シスメックスRA
米州	シスメックス アメリカ、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス ブラジル
EMEA	シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス フランス、シスメックス スペイン
中国	シスメックス 無錫、済南シスメックス
AP	シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス インディア、シスメックス ニュージーランド、シスメックス オーストラリア



※ 活動およびサイトの適用範囲は規格により異なります。詳細は www.tuv.com の ID 0910589004 を参照。 [🔗](#)

環境監査の実施

ISO 14001認証を取得している各拠点では、環境マネジメントシステムの要求事項に従って、「内部環境監査」および「外部環境審査」を定期的の実施しています。

2019年度は、認証統合している国内グループ4社9拠点の内部環境監査で軽微な不適合が1件見つかりましたが、是正対応を完了しています。外部環境審査では不適合は0件でした。

環境教育

環境教育・訓練の実施

シスメックスでは、グループの環境活動やそれぞれの業務がどのように環境に影響を及ぼすかを周知するための全従業員向け一般教育と、各部門に設定した環境マネジメントシステム推進責任者および推進担当者に対する実務知識習得のための専門教育を実施しています。さらに、各部門で必要に応じて専門教育や緊急事態訓練なども行っています。

2019年度は、ISO統合認証の適合事業所に所属する全従業員と、海外拠点の環境担当者向けにeラーニングによる環境一般教育を行いました。また、事業所担当者および製品ライフサイクル部門の担当者向けの法規制セミナーを実施しました。

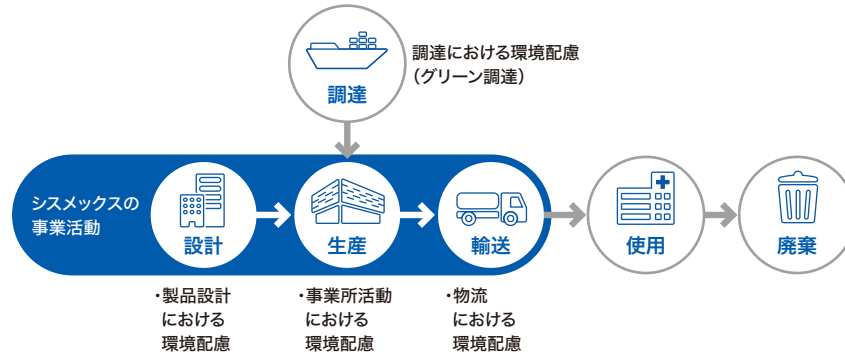
マテリアリティ

環境への配慮

製品ライフサイクルにおける環境配慮

製品ライフサイクルと各段階での取り組み

シスメックスでは、製品ライフサイクル全体での環境負荷を低減するよう、あらゆる事業活動の段階で、さまざまな取り組みを実施しています。



▶ 事業所活動における環境配慮については、「事業所活動における環境負荷低減」をご覧ください。

▶ マテリアルバランスの詳細については、「環境データ」をご覧ください。

環境に配慮した製品・サービス

製品設計における環境配慮

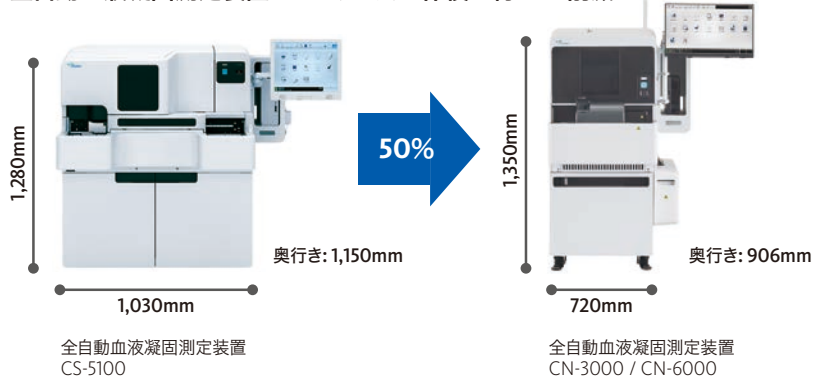
シスメックスでは、お客様が製品を使用される際のエネルギーや廃棄物の低減に貢献するため、製品ライフサイクルマネジメントに関するグローバル規程において、製品ライフサイクルの各段階において、経営上適切と考えられる環境配慮の取り組みを盛り込み、検体検査装置の省電力化、試薬使用量の低減などに配慮した製品開発に取り組んでいます。

環境活動計画では、装置の軽量化や省電力化、装置で使用する水や試薬消費量の削減検討、交換部品を長寿命化することによる廃棄物削減などの目標設定を行い取り組んでいます。

2018年に国内で発売された全自動血液凝固測定装置 CNシリーズでは、従来装置より体積を約50%、重量を約27%削減することで輸送時CO₂発生量を12%削減するとともに、消費電力を約36%削減しました。

また濃縮試薬の使用を進めることで、容器・包装材料の省資源化や検査室で発生する廃棄物の削減を図っています。

全自動血液凝固測定装置 CNシリーズは体積を約50%削減



2019年度の実績

消費電力の多い大型の血液分析装置の販売設置台数が増加したことにより、機器製品の使用時における1台当たりのCO₂排出量はシスメックス・エコビジョン2025の基準年度である2016年度より4%増加しました。機器製品の使用時における水消費量は、試薬消費量の少ない製品の販売増加により3%削減しました。

今後は、消費電力および水消費量削減を実現する新製品の開発・販売等により、CO₂排出量と水消費量の削減を推進していきます。

▶ 非財務目標の進捗はこちらをご覧ください。

▶ 環境データの詳細はこちらをご覧ください。

原料物質の生産における環境配慮

シスメックスでは、天然資源の使用抑制を目指して、診断薬における動物由来原料のタンパク質に関して、遺伝子組み換えをしたカイコによる生産手法を確立しました。従来、これらの原料の生産には多くのエネルギーを消費していましたが、遺伝子組み換えをしたカイコは一般室内飼育が可能であり、容器内で人工餌を与えるだけのため、安定供給が図れるとともに、省エネルギーや廃棄物削減も期待できます。

2017年度に発売を開始した試薬「レボヘムPT」の原料にも、カイコから生産したタンパク質を用いています。これは、国内で初めて製造販売承認を取得しています。

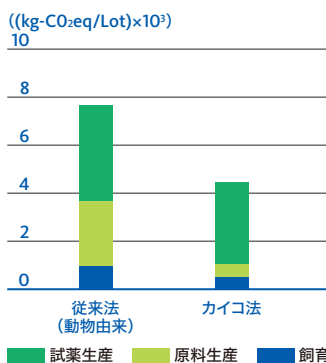
また、この技術を用いて、2012年度から受託生産ビジネスも本格的に開始しており、すでに多くの製薬企業から注文をいただいています。



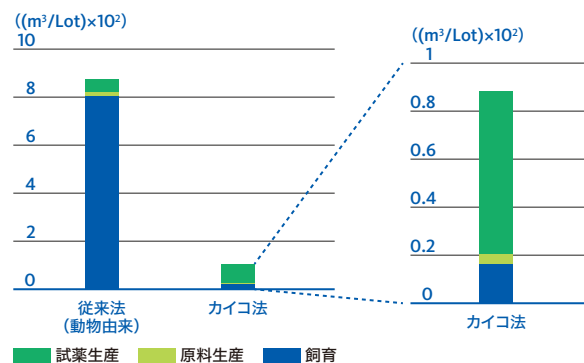
カイコを利用した原料生産

カイコ法使用時における従来法との比較(レボヘムPT)

【CO₂排出量】



【水資源】



※ 自社製品による比較(東京都市大学との共同研究による)

環境に配慮した調達(グリーン調達)

取引先と協力して環境に配慮した調達を推進

シスメックスは、調達活動における環境配慮への基本的な考え方として、「グリーン調達基準」を制定しています。

また、毎年各取引先に対して実施しているCSR調査では、環境管理に対する方針の有無、CO₂削減や省エネルギーに関する目標、計画の有無などを確認しています。

- ▶ [調達方針についてはこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 131KB\)](#)
- ▶ [グリーン調達基準についてはこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 212KB\)](#)
- ▶ [グリーン調達に関する開示情報の改定・更新履歴についてはこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 46KB\)](#)
- ▶ [CSR調査についてはこちらをご覧ください。](#)

禁止物質、削減物質、対象国を明示

グリーン調達基準に基づき、生産および販売する製品を構成する部品、デバイス、材料などに含有される化学物質(環境負荷物質)への対応について、以下に開示しています。

1. 禁止物質(使用を禁止する物質)2020年5月31日改訂
 - ▶ [禁止物質\(PDF形式 / 1.10MB\)](#)
2. 削減物質(削減を必要とする物質)2020年5月31日改訂
 - ▶ [削減物質\(PDF形式 / 1.57MB\)](#)
3. 対象国一覧(禁止物質・削減物質の根拠となる環境関連法令対応を意図する国および地域)2020年5月31日改訂
 - ▶ [対象国一覧\(PDF形式 / 65KB\)](#)

環境に配慮した物流

製品の国内・域間物流のCO₂排出量削減活動

グローバルに事業拡大を続けているシスメックスは、物流の多様化に対応した物流プロセス・体制および梱包材料や在庫管理の見直しによる、CO₂排出量の削減を進めています。

2019年度の実績

米州とアジア向けの一部製品の輸送を航空便から船便に切り替えたことにより、出荷物流におけるCO₂排出量はシスメックス・エコビジョン2025の基準年度である2016年度より17%削減し、2025年度目標である15%削減を達成しました。

今後も航空便から船便への切替促進と、計画的な船便出荷を行うことでCO₂排出量の削減を行います。

- ▶ 非財務目標の進捗はこちらをご覧ください。
- ▶ 環境データの詳細はこちらをご覧ください。

物流プロセスの効率化

シスメックスでは、効率的なコンテナ使用により、CO₂排出量の抑制を図っています。2019年度に新設したバイオ診断薬拠点では、海外向けの製品出荷にあたり、従来の20FTコンテナに加え40FTコンテナによる輸送を開始し、輸配送の効率化とCO₂削減による環境負荷を低減しています。

梱包資材の見直しによる省資源化

シスメックスでは省資源のために梱包材の削減に取り組んでいます。2019年度は梱包箱のサイズ最適化によるダウンサイジングや、梱包方法を袋状緩衝材からフィルム梱包への改良によって、緩衝材の使用を削減しました。また遺伝子変異解析セット(がんゲノムプロファイリング検査用)の国内向けの輸送用箱を繰り返し利用できるリユース梱包箱に切り替え、段ボール箱の廃棄を削減しました。

シスメックス国際試薬では、サプライヤーと連携して資材輸送梱包材を段ボール紙から通い箱(プラスチック製コンテナ)への切り替えを推進しており、2019年度は、梱包材の廃棄を1,960kg削減することができました。

フィルム梱包化による緩衝材の削減



在庫管理などの見直し強化による省資源化

シスメックスでは、全社的なサプライチェーンの見直し強化を推進し、製品の廃棄削減活動に取り組み、2019年度の売上高に占める廃棄額や評価減の割合を前年度と比べ20%以上改善しました。また機器生産工場のアイスクエアでは、専用コンテナを高密度に収納し、ロボットがコンテナの出し入れを行う自動倉庫型ピッキングシステム「AutoStore」を導入するなど、効率化を図っています。

また海外のグループ会社でも、物流におけるさまざまな施策に取り組んでいます。

会社名	取り組み内容
シスメックス リージェンツ・アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客や物流施設への直送を行い、輸送におけるCO₂排出量を削減 ・試薬容器にリサイクル可能な素材を使用
シスメックス パルテック	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の製品を一つの箱にまとめて梱包し、梱包材の使用量を削減
ハイフェンバイオメッド	<ul style="list-style-type: none"> ・試薬容器にリサイクル可能な植物性繊維を使用 ・最終包装前の保管箱を再利用
オックスフォード ジーン テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> ・包装容器をプラスチックから段ボールに変更することで軽量化を図り、CO₂排出量を削減
シスメックス マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> ・温度管理の厳密な製品輸送時に、リサイクル可能な断熱パネルを使用し、廃棄物を削減
シスメックス オーストラリア	<ul style="list-style-type: none"> ・製品輸送時に、温度管理しながらリサイクル可能なコンテナを使用

マテリアリティ

環境への配慮

事業所活動における環境負荷低減

温室効果ガスの排出量削減

事業所の温室効果ガス排出量の削減活動

各事業所では、直接的または間接的に発生する温室効果ガスの排出量を削減するために、さまざまな活動を進めています。

2019年4月に開設したバイオ診断薬拠点では、LED照明や人感センサー、需要電力を計測・監視するデマンド制御、高効率な空調システムの導入により省エネルギーを推進しています。さらに2013年度より開始した生産改革による生産性向上の実現が環境負荷の低減につながっています。徹底的な無駄の排除や工程の連続化などにより、一部製品における生産性は、生産改革開始以前と比較して約12倍向上しました。

シスメックス ヨーロッパでは、100%再生可能エネルギーの電力を使用しており、自社工場にソーラーパネルも設置しています。シスメックス アメリカとシスメックス リージョン・アメリカでは、2019年度から電力の約50%を再生可能エネルギーに変更する取り組みを始めました。

2019年度の実績

シスメックス株式会社では、2019年4月に開設したバイオ診断薬拠点が稼働開始したことによりエネルギー消費量が増加しましたが、高効率な電気・空調システム等を導入することによりその増加幅を大きく抑制しました。その他米州での再生可能エネルギー使用への変換等により、事業所活動におけるCO₂排出量はシスメックス・エコビジョン2025の基準年度である2016年度より17%削減しました。今後も各拠点でのCO₂削減に向けた活動を推進していきます。

- ▶ 非財務目標の進捗はこちらをご覧ください。
- ▶ 環境データの詳細はこちらをご覧ください。

温室効果ガス排出量削減の取り組み

取り組み	会社名	内容
省エネ対策	シスメックスRA	省電力かつタイマー付空調(8機)の導入(年間CO ₂ :23t削減)
設備などの高効率化	シスメックス株式会社	ソリューションセンターで、ガスを使用しない高効率型の空調設備に切り替え
	シスメックス アメリカ	・全ての照明をLEDに交換 ・社用車を燃料効率の良い車両に変更
	シスメックス ヨーロッパ	主要な試薬充填室の照明をLEDに交換
	シスメックス アジア・パシフィック	工場と倉庫の照明をLEDに交換
	済南シスメックス	石油使用のボイラーを天然ガス使用に変更
再生可能エネルギーの導入	シスメックス株式会社	アイ スクエアで、太陽光パネルを設置、また作業場所に自然光を採り入れることで使用電力をセーブ
	シスメックス ヨーロッパ	・100%再生可能エネルギーの電力を使用 ・工場の屋根にソーラーパネルを設置し電力を供給
	シスメックス アメリカ シスメックス リージョン・アメリカ	電力の50%を再生可能エネルギーに変更

取り組み	会社名	内容
従業員への啓発	シスメックス マレーシア	・通勤時にハイブリッド車を使用している従業員に「グリーナーシスメックスポイント」を付与し、エネルギー使用量・CO ₂ 排出量を削減 ・NGV(天然ガス自動車)のタクシーおよび空港リムジンの利用を奨励
	シスメックス ヨーロッパ シスメックス アイノスティクス	通勤時に公共交通機関を利用する従業員への補助
	シスメックス インディア	通勤時に利用している従業員の自家用車は全て、PUC証明*を受けたものであることを確認

※ PUCとは、Pollution Under Controlの略で、車からの排出ガスが公害規制基準値以下であることを証明するもの。インドでは法律により、半年に一度のPUCテストを受け、PUC証明を受けることが義務付けられている(新車のPUC証明の有効期限は1年間)。

社用車のCO₂排出量削減

約400台ある国内の社用車の燃料消費量を抑え、CO₂排出量を削減するために、イントラネットを利用して各車両の走行量、使用ガソリン量を「見える化」し、ドライバーの意識向上を図るとともに、低燃費車やハイブリッドカーの導入、社用車の削減も進めています。またハイフェンバイオメッドでは、ディーゼル車からガソリン車への転換を進めています。

関連法規制の遵守

省エネ法に基づき、シスメックス株式会社およびシスメックス国際試薬では年間エネルギー使用量を集計した定期報告書とエネルギー削減計画をまとめた中長期計画書を経済産業省へ提出しています。今後も努力目標達成の維持を目指して、国内グループ全社の省エネルギー活動を推進していきます。

水資源の有効利用

水使用量の削減

シスメックスは中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用するなど、事業活動の中で上水や地下水を使用しています。そのため、水使用量の削減を重要な社会的責任の一つと位置付けて、シスメックス・エコビジョン2025で水使用量の削減目標を設定し、各拠点で水の使用効率を高めるなどの取り組みを進めています。

水リスクの評価

シスメックスでは、水ストレスに関するリスク評価を行っています。WRI(世界資源研究所)のアセスメントツールAqueductを用いて分析し、その評価結果について環境管理委員会で議論を行い、リスク低減に向けた施策に展開しています。

2019年度の実績

2019年4月に開設したバイオ診断薬拠点での試薬生産の開始等により、事業所活動における水消費量はシスメックス・エコビジョン2025の基準年度である2016年度より6%増加しました。

今後は、生産移管の完了とさらなる生産効率の改善を進めることにより、水使用量の削減を推進していきます。

- ▶ 非財務目標の進捗はこちらをご覧ください。
- ▶ 環境データの詳細はこちらをご覧ください。

各事業所の主な取り組み

会社名	取り組み
シスメックス株式会社	<ul style="list-style-type: none"> 各工場では、生産効率の改善を進め工数削減を図ることにより、水使用量を低減 バイオ診断薬拠点では、井戸から取水し緑化用水、便所洗浄水として使用
シスメックス アジア・パシフィック	<ul style="list-style-type: none"> 超純水プラントを改良し、工場が稼働していない時間帯を利用してRO水(純水)をリサイクル 水使用量削減のために原水脱気装置を設置
シスメックス インディア	排水処理システムを導入し、試薬製造時に排出される水を浄化し、工場周辺の緑地への灌漑用水として使用

排水管理・処理

シスメックスでは水質の保全を重視し、化学物質を扱う開発拠点や工場からの排水で河川や地下水に影響が及ばないように独自の排出基準を設定し、管理しています。

排水管理・処理方法

会社名	方法
シスメックス国際試薬	小野工場でBOD(生物化学的酸素要求量)の基準値を超えた場合にアラーム(警報)を発出するシステムを導入し、有機物を含む廃液の流出を未然防止
シスメックスRA	廃液処理装置を導入し、感染性廃液を加熱滅菌で無害化して直接下水へ排出
シスメックス アメリカ	排水処理システムを導入し、試薬製造時に発生する廃液からホウ素含有物を除去
シスメックス アジア・パシフィック	排水処理システムを導入し、試薬製造時に発生する廃液を下水道に排出する前に浄化

廃棄物の管理とリサイクル

廃棄物量の削減と安定したリサイクル率の維持

シスメックスは、廃棄物の削減やリサイクル率向上に継続的に取り組んでいます。

機器生産工場であるアイ スクエアでは、社員食堂での食品ロスを減らすため、専用の処理機を利用して生ごみを有機肥料素材等に変換し、生産農家に提供しています。また、そこで栽培された農産物を購入するなど、循環共生型社会の実現に貢献しています。

資料の電子データ化を推進

シスメックスではパソコンやタブレット端末、スマートフォンなどを活用した電子データの送受信でペーパーレス化に取り組んでおり、それによって業務効率の向上と紙使用量および廃棄量の削減を実現しています。また製造拠点においても、製造記録やマニュアルの電子化によりペーパーレス化を推進しています。

2019年度の実績

米州など海外拠点でのリサイクル率向上が実現しなかったことにより、シスメックス・エコビジョン2025の目標値である93%以上に対して67%の実績となりました。

今後は、各拠点でのリサイクル率向上のための施策を展開し、目標達成に向けた取り組みを推進していきます。

- ▶ 非財務目標の進捗はこちらをご覧ください。
- ▶ 環境データの詳細はこちらをご覧ください。

廃棄物量削減の取り組み

会社名	取り組み
シスメックス株式会社	社員食堂に生ごみ処理機を導入し廃棄量を低減(テクノパーク、ソリューションセンター、アイ スクエア)
シスメックス アジア・パシフィック	計量用ドラムに使用しているアルミ箔を再利用可能な素材に変更
シスメックス マレーシア	段ボール箱、プラスチック材料のリサイクルおよび慈善団体へ寄付
シスメックス 無錫	購買品の包装用PE袋を生活用ごみ袋として再利用

- ▶ その他廃棄物削減の取り組みは、「製品ライフサイクルにおける環境配慮」をご覧ください。

化学物質管理

有害物質の貯蔵・使用状況の把握と管理

シスメックスでは製品の研究開発や生産工程で化学物質を扱っています。そのため紛失・漏えいの防止はもちろん、現場で作業に従事する従業員に健康被害が及ばないように化学物質の適正管理に努めています。

有害物質の管理方法

会社名	取り組み
シスメックス株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・薬品管理委員会を設置し、薬品事故の低減、関連部門への教育など、管理体制を強化 ・学術実験室において「学術本部実験室管理基準」に基づき薬品管理を徹底
シスメックス国際試薬	IDカードや指紋認証により、登録者以外の劇物危険物保管庫への入室を禁止
シスメックス 無錫	有害廃棄物は一般廃棄物とは別に保管し、法令に則した装置で処理

有害廃棄物の排出・排水、大気への排出に関する管理・処理

有害廃棄物の管理・処理

生物由来の物質による万が一の感染の危険性に備え、マニュアルに基づいて保管・使用場所を制限するなど厳重に管理するとともに、一般廃棄物とは厳格に分別して適切に処理しています。

また、その他の有害物質についても、飛散の抑制、流出や地下浸透がないように設備・管理手法の両面から対策を講じ、排出を法規制の基準値以下に抑えるよう努めています。

大気への排出に関する管理・処理

国内のグループ会社では、2015年に改正施行されたフロン排出抑制法に対応するために、各社で対応手順マニュアルを作成し、所有・管理するフロン含有機器の明確化、適切使用、点検の実施、算定漏えい量の把握を実施しています。

環境への配慮

生物多様性保全

生物多様性との関わり

シスメックスでは、中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用しており、また他にも事業活動を行うにあたり地球上の生物から多くの恩恵を受けています。そのため、地域の水源涵養に寄与する森林の保全を重要な社会的責任の一つと位置付けるとともに、生物多様性保全への貢献を目指しています。

▶ 診断薬における動物由来タンパク質原料(遺伝子組み換えカイコ)の切り替えについてはこちらをご覧ください。

森林保全活動

「シスメックスの森」を通じて、生物多様性保全に貢献

2013年度から、兵庫県が推進する「新ひょうごの森づくり」活動の趣旨に賛同し、森林整備活動をスタートさせました。試薬工場が立地する兵庫県小野市にある「かわい快適の森」(17ヘクタール)のうち、約2ヘクタールを借り受けて「シスメックスの森」と名付け、従業員ボランティアによる間伐作業などを実施し、「人といきものがともに憩える里山づくり」を目指しています。

2019年度は、13回の活動を実施し、延べ約200名が参加しました。

「シスメックスの森」での取り組み

取り組み	内容
生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧種の保全 (カシミサンショウウオ^{※1}の生育環境の保全、アサギマダラ^{※2}を呼ぶための植物の植え付けなど) ・希少な野生植物の保存(ササユリの栽培による種の回復、キンラン^{※3}生息地の保護)
教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自然との触れ合いを楽しめるプログラムを実施 (森林観察会、紅葉植樹、鳥の巣箱の管理など) ・環境省・農林水産省・国土交通省が主唱する「グリーンウェイブ2019」に参加登録

※1 環境省レッドリスト2020で絶滅危惧II類(VU)に指定されている小型のサンショウウオ。

※2 その多くが春に日本に飛来し、秋には台湾など南方に約2,000kmもの長距離を移動する珍しい渡り蝶。千葉県のレッドリストで準絶滅危惧種に指定されている。

※3 環境省レッドリスト2020で絶滅危惧II類(VU)に指定されている地生ランの一種。

▶ 従業員ボランティアを促進するための制度についてはこちらをご覧ください。

▶ 「シスメックスの森」についてはこちらをご覧ください。



シスメックスの森(森林整備活動の参加者)



シスメックスの森(紅葉の植樹)

その他地域での活動

会社名	活動内容
シスメックス ヨーロッパ	EMEA地域で「EMEA環境ウィーク」を設定し、ハーブガーデンやミツバチ園の整備、植樹活動を実施
シスメックス アイノスティクス	ハンブルク市との環境パートナーシップを締結
シスメックス ニュージーランド	ハウラキ湾の島々での植樹活動に定期的に参加
シスメックス インディア	世界環境デーの活動として従業員による植樹活動を実施



EMEA環境ウィーク活動



ミツバチ園の整備



インド試薬生産工場による植樹活動

ガバナンス

コンプライアンス	62
コンプライアンスマネジメント	62
コンプライアンス推進の取り組み	65
リスクマネジメント	68
リスクマネジメント体制	68
事業継続にかかわるリスクへの対応	69
情報セキュリティの強化	70



マテリアリティ

ガバナンス



なぜ重要か

ガバナンスの欠如による企業不祥事や、それに伴う社会的影響は大きくなっており、2015年には、企業に対して財務的側面だけでなく非財務的側面にも配慮した事業活動を行うことを求める「コーポレートガバナンス・コード」が施行されました。

シスメックスにおいても、ガバナンスおよび内部統制の強化や、経営の基盤強化に向けたコンプライアンスおよびリスクマネジメント体制の強化は、事業リスクの低減、ステークホルダーからの信頼の確保、ひいては中長期的な企業価値向上につながる重要な経営課題の一つと考えています。

マネジメントアプローチ

【方針】

コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題の一つとして位置づけ、経営の健全性、透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させることで、グループ全体の企業価値の最大化を目指します。

▶ ガバナンスに関する方針はこちらをご覧ください。

【体制】

取締役会の監査・監督機能を強化するとともに、経営の透明性・客観性を向上させることを目的として、監査等委員会設置会社制度を採用しています。また、業務執行の意思決定スピードを高め、事業環境の変化に迅速に対応するため、執行役員制度を導入しています。

▶ コーポレートガバナンスについてはこちらをご覧ください。

【目標】

モニタリング指標として「内部通報件数」「倫理違反件数」を設定しています。

▶ 目標の詳細はこちらをご覧ください。

関連するSDGs



マテリアリティ

コンプライアンス

コンプライアンスマネジメント

グループ方針

「正々堂々とした事業活動」を追求

シスメックスは、グループ企業理念である「Sysmex Way」に基づき、コンプライアンスを「法令遵守とともに高い倫理観に基づいた正々堂々とした事業活動を行うこと」と定義し、グループの全役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインをまとめた「グローバルコンプライアンスコード」を制定しています。「グローバルコンプライアンスコード」は、日本語だけではなく、英語をはじめとした多言語に翻訳されています。

▶ [グローバルコンプライアンスコード全文についてはこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 631KB\)](#)

グローバルコンプライアンスコード(概要)

1. お客様への安全と安心の提供

私たちは、全ての企業活動において、お客様への安全と安心の提供を優先して行動します。

2. 公正な取引と自由な競争の推進

私たちは、公正で自由な競争の推進に関する各国・地域の法令等を遵守し、お客様をはじめとした全ての取引先と公平かつ公正に接し、適切な条件で取引を行います。また、同業他社との関係においては、相互間での不当な取引制限や相手を貶める不正な行為を行いません。

3. 公平・適正な情報開示と情報管理の徹底

私たちは、グループの経営状況や事業活動などの企業情報を、各国・地域の関連する法令等に従い、公平、迅速、正確に、かつわかりやすく開示するとともに、事業活動を通じて収集された営業秘密は、第三者に不利益を与えることのないように厳重に管理します。

4. 適正な研究開発活動の実施

私たちは、研究開発を行うにあたっては、遺伝子その他研究開発における被験者のプライバシーを保護するなど、被験者の尊厳および人権を守り、各国・地域の関連する法令等を遵守するとともに高い倫理観をもって活動を行います。

5. 知的財産権の尊重

私たちは、グループの知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重し、不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりいたしません。

6. 国際的な平和と安全の維持

私たちは、各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引には関与しません。

7. 適正な会計処理と納税の実施

私たちは、租税に関連する法令その他各国・地域の経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。

8. 人権の尊重と安全・衛生の向上

私たちは、世界人権宣言、ILO 中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的な人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

9. 公私のけじめと利益相反行為の禁止

私たちは、職務遂行において自己の利益を図ることはもちろん、グループの資産や物品および情報などの不正利用や、グループの事業活動に不利益を及ぼす個人的な行為を行いません。

10. 社会との健全な関係の保持

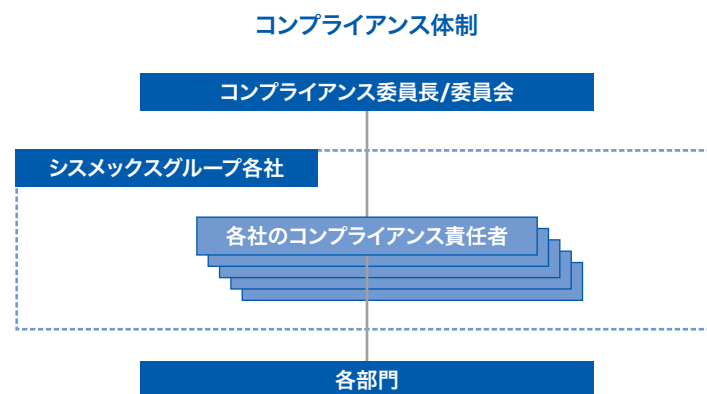
私たちは、贈収賄禁止に関連する各国・地域の法令等を遵守するとともに、政治献金を行う際は、関連法令等を遵守し厳正に対応します。また、反社会的な活動や勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持ちません。

11. 地球環境の保護

私たちは、環境関連法令等を遵守するとともに、各国・地域の環境に関する国際基準等に基づき、事業活動全般において環境に配慮した取り組みを行い、地球環境の保護と向上に努めます。

コンプライアンス推進体制

シスメックスでは、コンプライアンスに関する社内ルールの整備や従業員のコンプライアンス意識の向上などに取り組んでいます。コンプライアンス委員会の委員長はグループのコンプライアンス統括責任者として、グループ全体のコンプライアンスを推進しています。また、グループ各社にもコンプライアンス責任者を設置し、各社でコンプライアンスを推進しています。



▶ コーポレート・ガバナンスの体制についてはこちらをご覧ください。

内部通報制度

シスメックスでは、全グループ会社で内部通報制度を設置し、運用しています。

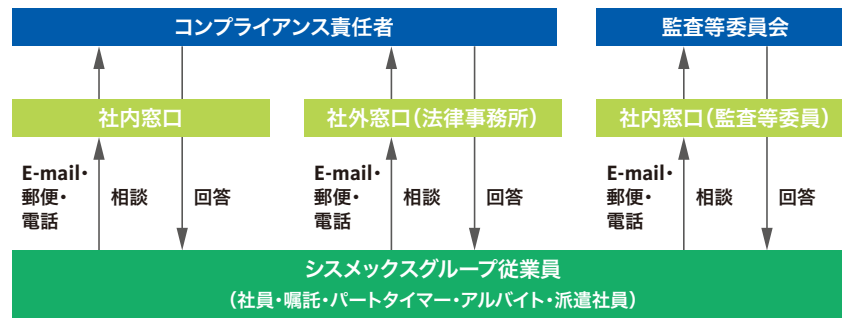
国内においては、内部通報制度「カンパニユラライン」を設置し、贈収賄や人権侵害などを含むコンプライアンス上の問題に関する相談を受け付け、早期に解決を図るようにしています。「カンパニユラライン」では、社内・社外の2つの窓口で、電子メール、郵便、電話による相談や通報を受け付けています。さらに経営陣に関する相談・通報のために監査等委員による窓口も設けています。寄せられた情報は匿名で取り扱い、公益通報者保護法に基づき、相談・通報者が不利益を受けないよう保護しています。

海外においても、各国の言語に対応した相談・通報窓口を設置しています。

さらに2019年度には、グローバル内部通報制度「Global Compliance Hotline」を設置し、国内外全グループ会社の従業員が本社に直接通報することができるようになりました。この制度によりコンプライアンス違反の早期発見を促進します。

2019年度の相談件数は国内・海外合わせて11件寄せられ、それぞれの相談案件に対し事実調査を行った上で適切に対処しました。

内部通報制度「カンパニユライン」



コンプライアンス教育

コンプライアンス教育を継続して実施

シスメックスではコンプライアンスを徹底するために、従業員などへの教育・啓発活動をコンプライアンス推進のベースと位置付け、グループのコンプライアンス研修を体系化し、グループ共通の考え方に沿って、各種のコンプライアンス教育を継続的に実施しています。新入社員教育、階層別教育などの機会を捉え、グローバルコンプライアンスコードに則った行動の浸透を図っています。また、公正な取引の促進、贈収賄・インサイダー取引・差別嫌がらせの禁止など、グローバルコンプライアンスコードを詳しく解説したガイドブックなどの教育ツールの充実を図り、各部門、各社での自主的かつ計画的な教育・啓発活動を推進するなどしてコンプライアンス意識の浸透・徹底を図っています。

2019年度の主なコンプライアンス教育実績

(国内)

- ・新たに入社した従業員へコンプライアンス研修を実施
- ・新任係長を対象にコンプライアンス研修を実施
- ・国内グループ従業員を対象に企業秘密管理に関する研修を実施
- ・新入社員、中途採用者、新任役職者を対象にLGBT*を含むハラスメント、労務管理、労働者派遣法に関する人権研修を実施
- ・販売・サービス活動従事者を中心に、国内外の競争法(独占禁止法)に関する研修を実施
- ・公正な取引を推進するための研修、医療機関等との関係の透明性確保のための法令・業界ルールに関する研修を実施

※ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった性的マイノリティの総称

(海外)

- ・新たに入社した従業員へコンプライアンス研修を実施
- ・コンプライアンスの重要性を再認識するためのリフレッシュ研修を実施
- ・公正な取引を推進するための医療機器業界ルールに関する研修を実施

マテリアリティ

コンプライアンス

コンプライアンス推進の取り組み

腐敗防止

贈収賄防止に関する基準整備、教育実施

シスメックスは、企業の自発的取り組みとして国連が提唱するグローバル・コンパクトの趣旨に賛同し、その10原則の一つである「企業は、強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである」に基づき、腐敗防止の徹底を図っています。

世界的な腐敗行為撲滅への機運が高まり、各国の法整備・執行強化が進む中、シスメックスでは、全役員・従業員に適用するグローバルコンプライアンスコード「10. 社会との健全な関係の保持」にて贈収賄行為を明確に禁じることに加え、贈収賄防止のための規程において、禁止行為、デューデリジェンス・教育の実施、管理体制などについて定め、グループ内へ周知徹底しています。さらに、各地域固有の法規制・商慣習等に応じた贈収賄防止の取り組みのため、各地域で規程を整備し、遵守を推進しています。

▶ [贈収賄防止規程の概要はこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 117KB\)](#) 

医療機関等との関係の透明性確保

シスメックスでは、研究開発から生産、販売、サービス&サポートにいたるまでの全ての段階で医療機関・医療関係者の皆様と連携する機会が増えており、高い倫理観に基づいて取引を行う必要があります。

日本では、一般社団法人日本臨床検査薬協会が制定された「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」の理念を踏まえ、会員企業であるシスメックス株式会社、シスメックス国際試薬もその趣旨に賛同し、医療機関等への資金提供等に関する情報を公開しています。

また、米国・フランス・ベルギーでは、企業に対し医療機関との関係の透明性確保を求める法律(サンシャイン法)が制定されており、対象となる医療機関等への資金提供等に関する情報を各国当局に報告・公開しており、当社ウェブサイトにも当局サイトで公開されている情報を公開しています。

▶ [医療機関などへの資金提供に関する情報\(ガバナンスデータ\)](#)

▶ [医療機関などへの資金提供に関する情報\(日本地域詳細\)](#) 

▶ [一般社団法人日本臨床検査薬協会「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」はこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 924KB\)](#) 

研究倫理

適正な研究開発活動の実施

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードの「4. 適正な研究開発活動の実施」において、遺伝子その他研究開発における被験者のプライバシーを保護するなど、被験者の尊厳および人権を守り、各国・地域の関連する法令などを遵守するとともに高い倫理観をもって研究開発を行うことを定めています。また「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関するグループ倫理規程」を定め、法律・科学の専門家などの社外委員をメンバーに含む「研究倫理審査委員会」を設置し、研究内容を審査しています。委員名簿や審査結果は当社ウェブサイトで公開し、透明性を確保しています。

▶ [「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関するグループ倫理規程」についてはこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 191KB\)](#) 

▶ [研究倫理審査委員会の活動についてはこちらをご覧ください。](#)

動物実験に対する配慮

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードの「4-4 動物実験」に定めたとおり、動物愛護に関する各国・地域の法令などを遵守し、代替法の使用を優先的に検討した上で必要最小限にとどめるとともに、苦痛を軽減するよう十分配慮し、動物実験を行っています。動物実験は公的な指針に準拠した社内規程に従って実施され、「実験管理委員会」により実験計画が規程に準拠しているかを厳格に審議しています。

準拠している指針

- ・動物の愛護及び管理に関する法律(環境省)
- ・実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準(環境省)
- ・研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針(文部科学省)
- ・動物実験の適正な実施に向けたガイドライン(日本学術会議)

▶ 遺伝子組み換えカイコによる動物由来タンパク質原料からの切り替えについてはこちらをご覧ください。

公正なマーケティング活動

グローバルでのプロモーション活動においては、グローバルコンプライアンスコード「2. 公正な取引と自由な競争の推進」でマーケティングにおける倫理コードを制定しており、世界各地域において、業界基準や自社で制定した基準に基づいた公正なマーケティング活動を推進しています。

日本における活動については、「シスメックスプロモーションコード」を制定しています。2019年度は、日本・東アジア地域本部の営業部門約200名に対し、「医薬品医療機器等法の改訂ポイント」「製薬協コード・オブ・プラクティスの改訂ポイント」などについて研修を実施しました。

▶ シスメックスプロモーションコードについてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 212KB) 

税務戦略

シスメックスは、税の透明性の向上を図るため、グローバルコンプライアンスコードにおいて「7. 適正な会計処理と納税の実施」を定めています。その中で、国外関連者との取引に関しては、OECD移転価格ガイドラインや各国の移転価格税制などに準拠した適切な移転価格を算定することや、恣意的な租税回避を目的としたタックスヘイブンの利用は行ってはならないことを定めています。

また有価証券報告書などにおいて、グループとしての法人税の納税額を開示するとともに、法定実効税率との差異要因についても開示しています。

▶ 有価証券報告書はこちらをご覧ください。

▶ Sysmex Report (Financial and Other Information)はこちらをご覧ください。

英国における税務戦略(英語のみ)

▶ 英国における税務戦略についてはこちらをご覧ください。(英語のみ) (PDF形式 / 67KB) 

知的財産権の尊重

シスメックスは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重しています。不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりしないことを、グループの全役員・従業員が遵守すべきルールとして、グローバルコンプライアンスコード「5. 知的財産権の尊重」に定め、このルールの周知徹底を図っています。また、新製品開発においては、知的財産部門、研究開発部門、事業推進部門などのメンバーがグローバルにパテントレビューを実施し審議しています。

安全保障貿易の推進

シスメックスではグローバルコンプライアンスコード「6. 国際的な平和と安全の維持」で各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引に関与しないことを定めています。不正輸出を防止するため社長直轄の安全保障貿易管理委員会を設置しています。さらに、海外の統括現地法人にも安全保障貿易の管理担当者を置き、グローバルでの運営体制を構築しています。また、年1回、全従業員を対象とする基礎的なeラーニングのほか、最新の世界情勢および法規制に関する講習会などさまざまな教育を継続的に実施し、安全保障貿易管理に対する意識向上を図っています。

マテリアリティ

リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

リスクマネジメント体制

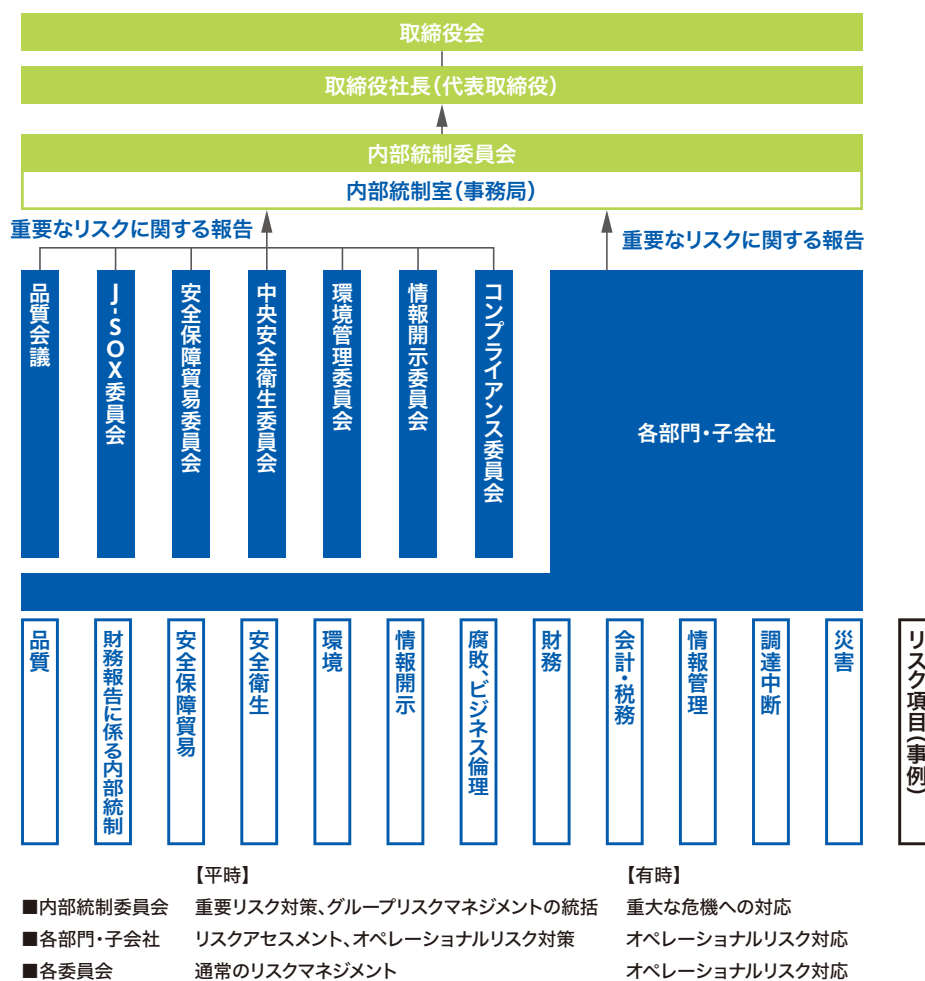
委員会を設置してリスクマネジメントを推進

シスメックスでは、2019年度まで設置していたリスクマネジメント委員会を発展させ、2020年度より内部統制委員会を設置し、戦略リスクも加えたリスク全般に関するマネジメント活動を推進しています。委員長は代表取締役社長が務め、担当執行役員、監査等委員(社外取締役を除く)をメンバーとし、社外取締役がオブザーバーを務めています。

委員会では、公正な取引、腐敗やビジネス倫理を含むコンプライアンス、人材、労働安全衛生、環境、納税を含む会計・財務などの項目についてリスク評価を定期的に実施し、グループとして事業に与える影響が大きなリスクを特定して対策を講じています。

また、コンプライアンス委員会などの関連委員会および各部門・関係会社が実施するリスクマネジメントの状況をモニタリングし、定期的に取締役会に報告するとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼすリスクが発生した場合についても、取締役会に報告しその対応について審議するなど、継続的にPDCAを回しています。

リスクマネジメント体制



▶ コーポレート・ガバナンスについてはこちらをご覧ください。

▶ 当社の主なリスクについてはシスメックスレポート(コーポレートガバナンス)をご覧ください。

マテリアリティ

リスクマネジメント

事業継続にかかわるリスクへの対応

事業継続計画(BCP)の整備

大規模災害発生時の対応

シスメックスでは、地震や津波などの大規模災害が発生した際にも重要業務を継続し、迅速な復旧を図るため、生産、調達などの機能ごとに事業継続計画(BCP)を策定して非常時に備えています。BCPでは、危機発生時にも医療機関において当社製品が安定して稼働し続けられるように、供給を優先すべき重要製品を選定しています。また、災害対応に関する規程やマニュアルを整備し、緊急時に迅速に対応できる体制を整え、災害発生を想定した模擬訓練の定期的な実施と、従業員用備蓄品の拡充も行っています。

製品の安定供給に向けた取り組みでは、主要な原材料の調達先の複数化や地産地消の考えに基づいた生産場所の選定によるリスク分散を図るとともに、非常時における工場間の相互供給体制の構築、輸送面での代替ルート確保などを実施しています。2019年度に発生した台風19号においても、関東地方や甲信地方、東北地方などの広い範囲で甚大な被害をもたらしましたが、早期に影響を把握して対策を取ることで、製品の供給を継続できました。

従業員に対しては、緊急連絡手段として「安否確認ツール」を導入し、従業員の安否確認を迅速に行える体制を整えています。また、各事業所にはデジタル無線機を設置し、通信途絶の際にも連絡が取れる手段を確保し、備蓄品および帰宅支援品も人数分備えています。また、eラーニングによる防災/災害時対応の教育や模擬訓練を実施しています。

IT基幹システムについては、災害などに強い社外データセンターに配置するとともに、万一災害などの発生時に通常稼働しているシステムがダウンした場合でも、速やかにバックアップシステムへ移行できるシステム基盤を構築しています。

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症への対応においては、2020年2月より対策プロジェクトを立ち上げ、製品の安定供給およびお客様へのサービス&サポートの継続と、従業員のテレワークの活用などの感染防止策の徹底に努めています。

製品の安定供給では、生産部門とSCM部門が中心となり、グループ全ての工場で感染者を出さないよう対策を行うとともに、サプライヤーの状況把握と製品への影響を迅速に把握し、生産計画を変更することなく、継続的な製品供給を行いました。

また、サービス&サポートにおいては、オンラインサポートの活用に加え、医療機関に出入りする従業員に対し、毎日の体温測定や施設訪問時のアルコール消毒、マスク、手袋の装着などの感染対策を徹底し、活動を継続しています。

従業員に対する感染防止策では、海外グループ会社も含めた従業員に対し、フレックスタイムやテレワーク、WEB会議の使用を推進し、安心して働ける環境を整備するとともに、グループ全体での従業員(パートタイマー・派遣社員含む)の雇用を維持しています(9,000名以上)。

▶ [その他新型コロナウイルス感染症への取り組みについてはこちらをご覧ください。](#)

マテリアリティ

リスクマネジメント

情報セキュリティの強化

情報セキュリティ体制の整備

シスメックスでは、お客様にご使用いただく製品・サービスに対してのサイバーセキュリティ対策に取り組んでいます。グループ全体で製品セキュリティポリシーを定め、当社製品の設計・製造および市販後のリスク管理への取り組みを行っています。

また、お客様や研究開発などの実験にご協力いただいた方々からお預かりしている情報や自社の技術情報など、重要な情報資産の保護を経営課題として認識し、情報の外部漏えい防止、サイバー攻撃などへの対策に取り組んでいます。グローバル情報セキュリティ基本規程(情報セキュリティポリシー)を定め、取締役 専務執行役員が務める情報セキュリティ統括責任者の統括・管理の下、グループ全体での情報セキュリティマネジメント体制を構築し、ITセキュリティレベル向上を目標に継続的な改善を推進しています。

具体的な対策としては、情報へのアクセス権限管理の徹底と定期的な棚卸、セキュリティパッチの定期的更新、会社貸与パソコン・モバイル機器の生体認証(顔認証・指紋認証)によるログイン制限、導入アプリケーションの審査など、情報資産の保護と継続的管理を行っています。さらに、従業員教育も定期的を実施しており、2019年度は、国内グループ全従業員を対象に、情報セキュリティとサイバー攻撃対策に関するeラーニングを実施しました。海外グループ会社においても、地域ごとに定期的な教育を実施しています。

スカイフロントリサーチキャンパスにおいては、遺伝子配列等の個人情報を用いた研究ができるよう、情報セキュリティの強化を行っており、2019年に情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)に関する国際規格ISO 27001の認証を取得しました。シスメックスCNAにおいても、サービス・サポート部門において認証を取得し、取り扱う情報の機密性・完全性・可用性を確保しています。

▶ [グローバル情報セキュリティ基本規程\(情報セキュリティポリシー\)の概要はこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 120KB\)](#) 

▶ [製品セキュリティポリシーはこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 285KB\)](#) 

社外からの評価 実績データ 情報開示体系／編集方針

社外からの評価	72
実績データ	75
社会性データ	75
環境データ	78
第三者保証	83
ガバナンスデータ	84



社外からの評価

サステナビリティ関連の評価、実績

世界的なサステナビリティインデックスに選定

財務的な視点に加え、環境・社会・ガバナンス(ESG)の非財務の視点から企業の持続可能性(サステナビリティ)を評価し、長期的視点で投資を行う責任投資が拡大しています。その責任投資の指標として、世界ではさまざまなサステナビリティインデックスが利用されています。シスメックスは持続可能性が高い企業として、多くのサステナビリティに関連するインデックスに選定されています。

・Dow Jones Sustainability World Index (2016年度より)

・Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index (2012年度より)

米国のS&P Dow Jones Indices社とスイスのRobeco SAM社が共同開発したESG投資インデックス。企業のサステナビリティを「経済・環境・社会」の側面から評価し、総合的かつ先進的な取り組みを行って、長期にわたり持続的な成長が期待される企業を選定している。

World Indexは、世界の上場企業が対象。Asia Pacific Indexは、アジア太平洋地域の上場企業が対象。



・FTSE4Good Index (2008年度より)

英国ロンドン証券取引所グループのFTSE Russell社が発表しているESG投資インデックス。世界主要企業の一般に公表されている情報のみを用いたESG評価に基づいて、優れた企業を選定している。



・FTSE Blossom Japan Index (2017年度より)

英国のFTSE Russell社が、ESGについて優れた対応を行っている日本企業を選定している。国連の持続可能な開発目標(SDGs)を含む国際基準から導出されたFTSE4Goodの組み入れ基準を活用している。



・MSCI ESG Leaders Indexes (2011年度より)

・MSCI SRI Indexes (2013年度より)

米国モルガンスタンレーグループのMSCI社(モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社)が開発したESG投資インデックス。評価対象企業の産業の特徴を踏まえ、各インデックスの重要度の高いESG課題に絞り込んだ評価に基づいて企業を選定している。



・MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数 (2017年度より)

米国MSCI社のESG投資インデックスの一つ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中でESG格付けが相対的に高い企業を選定している。



・**MSCI日本株女性活躍指数(WIN)** (2017年度、2019年度、2020年度)

米国MSCI社のESG投資インデックスの一つ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中で性別多様性に優れた企業を選定している。

2020 CONSTITUENT MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

・**S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数** (2018年度より)

米国のS&P Dow Jones Indices社が、TOPIX(東証株価指数)をユニバースとして、環境情報の開示状況、炭素効率性(売上高当たり炭素排出量)の水準により構成銘柄の投資ウエイトを決定した指数。



・**Ethibel Excellence** (2011年度より)

・**Ethibel Pioneer** (2014年度より)

ベルギーの非営利団体Forum Ethibelが開発した投資インデックス。企業の社会的責任の観点から高いパフォーマンスを示している企業を選定している。PioneerとExcellenceの2種類があり、Excellenceに選ばれた企業の中から、さらに優れた企業がPioneerに組み入れられる。



・**Ethibel Sustainability Index(ESI)** (2015年度より)

Ethibel Excellenceに選ばれた企業の中から、浮動株時価総額などの制約条件に基づいて、構成されているインデックス。



・**Global 100(世界で最も持続可能な100社)** (2011年度、2015年度、2016年度)

カナダのコルポレート・ナイツ社が選出する、持続可能性の高い企業上位100社。世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)にあわせて毎年発表される。

・**Euronext Vigeo Eiris World 120 Index** (2018年度より)

米国や欧州で多数の証券取引所等を運営するNYSE Euronext社(米国)とESG調査会社であるVigeo Eiris社(フランス・英国)が提携して開発した指数で、欧州・北米・アジアパシフィック地域における、ESGの取り組みに優れた企業上位120社が選定される。



・**SOMPOサステナビリティ・インデックス** (2018年度より)

SOMPOアセットマネジメント株式会社が設定するインデックス。ESGの取り組みに優れた企業約300銘柄が選定される。



その他の評価、表彰

2017-2019年度 実績

2020年

- 2月 第23回環境コミュニケーション大賞 優良賞(環境報告部門)受賞(「シスメックス サステナビリティデータブック 2019」)
- 2月 経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人2020～ホワイト500～」の選定

2019年

- 11月 令和元年度 近畿地方発明表彰を受賞
- 11月 保健医療情報交換のための標準規格であるHL7への貢献について「HL7 Standards Implementer Award」を受賞(シスメックス ニュージーランド)
- 9月 Brandon Hall Groupが開催する「Excellence in Learning Awards 2019」にて「Best Customer Training Program」銀賞を受賞(シスメックス ヨーロッパ)
- 7月 「新規糖鎖マーカールを用いた肝臓の線維化診断技術」において、第44回井上春成賞を受賞
- 5月 FOCUS-Businessが主催する「Top Employer SME 2019」医療機器カテゴリーにて8位に選定(シスメックス ヨーロッパ)
- 4月 上海浦東地区より「Outstanding Contributions to Ecomomy」を受賞(シスメックス 上海)
- 4月 Quest Diagnostics社が主催する「Supplier Excellence Awards」を受賞(シスメックス アメリカ)
- 3月 NZHIT イノベーションアワードのファイナリストに選定(シスメックス ニュージーランド)
- 3月 「Companies That Care Honor Roll 2019」に選出(シスメックス アメリカ)
- 2月 経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人2019～ホワイト500～」の選定
- 2月 第22回環境コミュニケーション大賞 優良賞(環境報告書部門)受賞(「シスメックス あんしんレポート 2018」)

2018年

- 12月 第6回WICIジャパン統合報告優良企業賞「統合報告奨励賞」を受賞
- 11月 平成30年度 近畿地方発明表彰を受賞
- 11月 Harvard Business Reviewが発表する「The Best-Performing CEOs in the World 2018」にて9位に選定
- 10月 シスメックス マレーシアが「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2018」に選定
- 10月 働きがいのある会社「Great Place to Work」(韓国トップ100)に選定(シスメックス コリア)
- 5月 平成30年春の褒章において「紫綬褒章」を受章
- 3月 「Companies That Care Honor Roll 2018」に選出(シスメックス アメリカ)
- 3月 経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人2018～ホワイト500～」の選定
- 2月 第21回環境コミュニケーション大賞 優良賞(環境報告書部門)受賞(「シスメックス あんしんレポート 2017」)

2017年

- 11月 超解像蛍光顕微鏡が「2017年度 グッドデザイン金賞」を受賞
- 11月 Harvard Business Reviewが発表する「The Best-Performing CEOs in the World 2017」にて18位に選定
- 10月 シスメックス アジア・パシフィックが「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2017」に選定
- 8月 「Forbes The World's Most Innovative Companies 100社(27位)」に選定
- 6月 「Work & Family in 2017」を受賞(シスメックス ヨーロッパ)
- 4月 平成29年度文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞

実績データ

社会性データ

注) 青色の項目は非財務目標として設定しています。

お客様関連

項目	2017年度	2018年度	2019年度	関連記事
シスメックスカスタマーサポートセンターへのお問い合わせ(件)	89,583	86,906	86,716	カスタマー リレーション
米国のお客様満足度* (点/10点満点) ※ IMV ServiceTrakによる調査	9.29	9.37	9.22	

従業員関連

従業員関連(シスメックス株式会社の実績数値)

項目	2017年度	2018年度	2019年度	関連記事	
新卒採用	合計(名)	64	76	59	ダイバーシティ の推進
	男性(名)	32	44	37	
	女性(名)	32	32	22	
	うち外国人(名)	5	8	9	
中途採用	合計(名)	30	42	59	
	男性(名)	23	36	46	
	女性(名)	7	6	13	
	うち外国人(名)	2	0	2	
離職* ※ 正社員(定年退職除く)	離職者(名)	75	87	72	マテリアリティと 非財務目標の進捗
	離職率(%)	3.22	3.78	3.09	
障がい者雇用	雇用者数(名)	51 (国内グループ 会社 69)	50 (国内グループ 会社 76)	51 (国内グループ 会社 82)	ダイバーシティ の推進
	雇用率(%)	1.84 (国内グループ 会社 2.04)	1.81 (国内グループ 会社 2.21)	1.78 (国内グループ 会社 2.30)	
定年退職者再雇用	希望者(名)	38	18	32	
	再雇用者(名)	38	18	31	
	再雇用率(%)	100	100	97	
育児・介護理由の退職者 再雇用	新規登録者(名)	3	2	2	働きやすい 職場環境の 確保
	再雇用者(名)	0	1	1	
	再雇用率(%)	0	50	50	

項目		2017年度	2018年度	2019年度	関連記事	
正社員への登用実績	契約社員(名)	16	21	18	働きやすい 職場環境の 確保	
	派遣社員(名)	10	9	2		
	合計(名)	26	30	20		
労働災害	労災による死亡(名)	0	0	0	マテリアリティと 非財務目標の進捗 健康経営の推進	
	労災によるけが(名)	2	5	2		
	労働災害度数率	0.35	0.89	0.86		
	労働災害強度率	0.05	0.06	0.08		
	延べ労働損失日数(日)	308	325	458		
	延べ実労働時間数(時間)	5,635,447	5,612,498	5,842,271		
有給休暇	付与日数(日)	49,177	52,116	53,415		
	取得日数(日)	32,063	35,232	36,821		
	取得率(%)	65.2	67.6	68.9		
産前産後休職利用者(名)		39	41	28		
育児休業利用者	女性(名)	32	40	33	働きやすい 職場環境の 確保	
	男性(名)	1	3	11		
育児のための勤務時間 短縮制度利用者	女性(名)	58	56	70		
	男性(名)	1	2	1		
介護休業利用者	女性(名)	5	1	2		
	男性(名)	0	1	1		
育児休業からの復帰率	女性(%)	97	99	98		
	男性(%)	100	100	100		
積立有給休暇利用者(名)		104	130	129		
在宅勤務利用者(名)		100	112	134		
フレックスタイム利用者(名)		2,086	2,008	2,600		
社内託児所利用児童	年間延べ(名)	34	32	25		
	年度末時点(名)	30	26	22		
研修実績	従業員1人当たりの平均教育費用(円)	98,000	103,000	98,000	人材の育成	
	従業員1人当たりの平均教育時間(時間)	24.9	28.9	27.7		
	研修プログラム数(個)	18	26	27		
インターンシップ生 受け入れ人数	合計(名)	128	125	144	ダイバーシティ の推進	
	うち外国人(名)	9	6	13		

注) 定義の変更に伴い、過去の開示データから一部修正しています。

項目	2017年度	2018年度	2019年度
従業員数(名) ^{※1}	2,046(504)	2,049(501)	2,108(512)
平均年齢(歳)	40.7	41.1	41.2
平均勤続年数(年)	12.0	12.3	12.4
平均年間給与(千円) ^{※2}	7,826	7,822	8,002

※1 従業員数はシスメックス株式会社から社外への出向者を除き、社外からシスメックス株式会社への出向者を含む就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()外数で記載

※2 平均年間給与は、基準外賃金および賞与を含む。

従業員関連(シスメックスの実績値)

項目		2017年度	2018年度	2019年度	関連記事
女性マネジメント比率 (課長級以上の女性比率)	シスメックス株式会社(%)	8.6	8.1	7.8	マテリアリティと 非財務目標の進捗 ダイバーシティの推進 第三者保証
	グループ全体(%)	15.2	15.2	15.5	

項目			2017年度	2018年度	2019年度	対象
グループ 男女比率	日本	男性(%)	59.1	58.4	57.7	正社員、受入出向者、 有期雇用 (役員、派遣社員除く)
		女性(%)	40.9	41.6	42.3	
	米州	男性(%)	63.7	61.1	60.9	正社員、受入出向者、 有期雇用、役員
		女性(%)	36.3	38.9	39.1	
	EMEA*	男性(%)	55.7	55.2	57.1	
		女性(%)	44.3	44.8	42.9	
	中国	男性(%)	65.7	66.0	67.3	
		女性(%)	34.3	34.0	32.7	
	アジア・ パシフィック	男性(%)	61.4	61.9	58.7	
		女性(%)	38.6	38.1	41.3	

項目			2017年度	2018年度	2019年度	対象
グループ 従業員数	日本	男性(名)	2,077	2,071	2,107	正社員、受入出向者、 有期雇用 (役員、派遣社員除く)
		女性(名)	1,440	1,475	1,598	
	米州	男性(名)	740	731	755	正社員、受入出向者、 有期雇用、役員
		女性(名)	422	465	494	
	EMEA*	男性(名)	1,318	1,355	1,388	
		女性(名)	1,049	1,099	1,154	
	中国	男性(名)	412	452	527	
		女性(名)	215	233	256	
	アジア・ パシフィック	男性(名)	474	516	583	
		女性(名)	298	318	369	
	合計(名)		8,445	8,715	9,231	

※ 欧州・中東・アフリカ地域













社会貢献活動関連

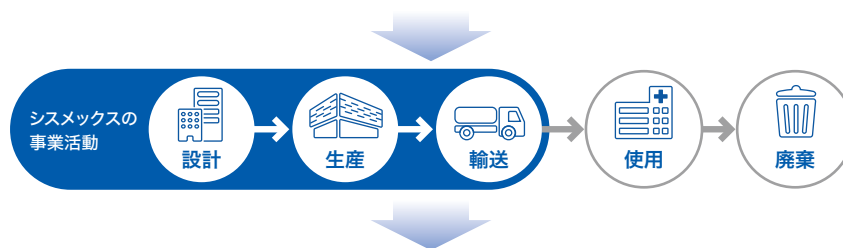
項目	2017年度	2018年度	2019年度
社会貢献支出額 (シスメックス株式会社)	約5億1,000万円	約5億3,000万円	約4億6,000万円







実績データ

環境データ

マテリアルバランス

INPUT				
		2017年度	2018年度	2019年度
	電気使用量(千kWh)	39,701	41,959	44,551
	都市ガス(千m ³)	600	1,097	1,108
	LPG(t)	24	19	19
	LNG(t)	0	57	0
	重油(kL)	35	0	0
	灯油(kL)	29	29	24
	軽油(kL)	17	38	24
	国内社用車ガソリン(kL)	689	619	604
	国内社用車軽油(kL)	23	18	10
	水使用量(千m ³)	418	449	512
	OA用紙(t)	45	38	36
	PRTR(t)	0	0	0



OUTPUT				
		2017年度	2018年度	2019年度
	温室効果ガス排出量(事業所)(t-CO ₂)	22,187	22,349	24,375
	温室効果ガス排出量(国内社用車)(t-CO ₂)	1,661	1,483	1,428
	廃棄物等総排出量(t)	1,482	2,255	2,722
	リサイクル率(%)	89	76	67
	水排出量(千m ³)	273	292	287
	PRTR(t)	0	0	0

環境パフォーマンスデータ

項目	内容		単位	対象範囲*1	
INPUT	エネルギー消費量	非再生可能エネルギー消費量	電力(非再生可能)	千kWh	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所
			都市ガス	千m ³	
			LPG	t	
			LNG	t	
			重油	kL	
			灯油	kL	
		軽油	kL		
	再生可能エネルギー消費量	電力(再生可能)	千kWh		
	総消費量		GJ		
	その他非再生可能エネルギー消費量	ガソリン(社用車)	kL	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	
軽油(社用車)					
水使用量	地下水	千m ³	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所		
	水道				
	総使用量				
OA用紙使用量		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場		
PRTRインプット		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所		
OUTPUT	温室効果ガス排出量 スコープ 1*3	固定排出源からのエネルギー起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所 ただし、社用車は日本国内に限る	
		社用車からのCO ₂ 排出量			
		総排出量			
	温室効果ガス排出量 スコープ 2*3	総排出量	t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所	
	温室効果ガス排出量 スコープ 3*3	物流におけるCO ₂ 排出量	t-CO ₂	シスメックス株式会社	
	廃棄物の排出量	総排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場	
		総排出量(国内営業拠点含まない)			
		マテリアルリサイクル廃棄物			
		リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物			
		総廃棄物処分量			
マテリアルリサイクル率		%			
リサイクル率(エネルギー回収を含む)					
水排出量	総排出量	千m ³	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所		
PRTRアウトプット	排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所		
	移動量				

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	カバー率 ^{※2}	算定方法など
	37,233	37,193	38,399	40,670	44,551	84%	総消費量=Σ(エネルギー種別消費量×換算係数 ^{※4})
	1,544	1,474	600	1,097	1,108		
	19	21	24	19	19		
	0	0	0	57	0		
	0	0	35	0	0		
	35	31	29	29	24		
	19	21	17	38	24		
	243	210	1,302	1,288	6,704		
	439,654	440,124	414,136	461,370	496,798		
	750	734	689	619	604	37%	
	24	25	23	18	10		
	50	58	53	65	75	84%	自家用地下水使用量
	341	348	365	384	437		上水使用量、工業用水使用量
	391	406	418	449	512		
	44	42	45	38	36	37%	
	0	0	0	0	0		
	3,757	3,559	1,749	2,964	2,665	84%	排出量=Σ(燃料使用量×CO ₂ 排出係数 ^{※4})
	1,802	1,768	1,661	1,483	1,428		
	5,559	5,327	3,410	4,447	4,093		
	20,278	19,201	20,438	19,385	21,710	84%	排出量=Σ(購入電力量×CO ₂ 排出係数 ^{※5}) +Σ(購入蒸気量×CO ₂ 排出係数 ^{※4})
	-	19,573	16,711	21,571	18,547	-	排出量=Σ(輸送重量×輸送距離×CO ₂ 排出原単位 ^{※6}) 日本向け：国内物流倉庫から国内顧客等(支店・営業所を含む) までの物流CO ₂ 排出量 海外向け：国内物流倉庫から海外各地域の港・空港までの 物流CO ₂ 排出量
	1,701	2,106	1,482	2,255	2,722		廃棄物排出量=一般廃棄物排出量+産業廃棄物排出量
	1,535	1,436	1,361	2,117	2,591	83%	廃棄物のうち、第三者による処理の結果、有価物になったものの量 燃料化(RPFなど)したのものも含む 廃棄物のうち、再利用、マテリアルリサイクル、 熱回収(サーマルリサイクル)したものの量 総廃棄物処分量=総排出量・リサイクル(エネルギー回収を含む) 廃棄物
	986	814	1,044	1,264	1,560		
	1,411	1,309	1,213	1,617	1,744		
	124	128	148	500	847		
	64	57	77	60	60		
	92	91	89	76	67		
	192	189	273	292	287	84%	
	0	0	0	0	0	37%	化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR排出量
	0	0	0	0	0		化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR移動量

項目	内容		単位	対象範囲※1
コンプライアンス	環境法規制(大気汚染、水質汚濁など)の違反	高額罰金の総額	億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所
		罰金以外の制裁措置総件数	件	
	重大な化学物質の漏出・紛失	総件数	件	
		総漏出量	t	

※1 各年度のデータは当該年度の対象範囲による実績を示す。2019年度対象の詳細は下記のとおり

国内主要事業所:シスメックス株式会社(本社・テクノパーク・ソリューションセンター)
 国内機器工場:シスメックス株式会社(加古川工場・アイ スクエア)、シスメックスメディカ、シスメックスRA
 国内試薬工場:シスメックス国際試薬(小野工場・西神工場)
 国内営業拠点:シスメックス株式会社(東京支社・他20拠点)
 国内その他事業所:シスメックス株式会社(研究開発センター・他5拠点)
 海外主要拠点:シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック
 海外生産工場:シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、
 シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫、シスメックス パルテック、
 シスメックス アイノスティクス、ハイフェン バイオメド
 海外その他事業所:シスメックス 台湾、シスメックス コリア

※2 カバー率は、会社別売上高を基に算出

※3 温室効果ガス排出量 スコープ1:企業の施設や工場から直接排出される温室効果ガス
 温室効果ガス排出量 スコープ2:エネルギーの使用に伴う、企業から間接排出される温室効果ガス
 温室効果ガス排出量 スコープ3:商品・サービスに関わる企業群(サプライチェーン)全体から排出される温室効果ガス

※4 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく換算係数もしくは排出係数

※5 日本:地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電気事業者別排出係数の調整後排出係数(平成27年度実績)
 海外:IEA, Emissions from Fuel Combustion 2018の2016年排出係数(2018年度より当該係数を使用)

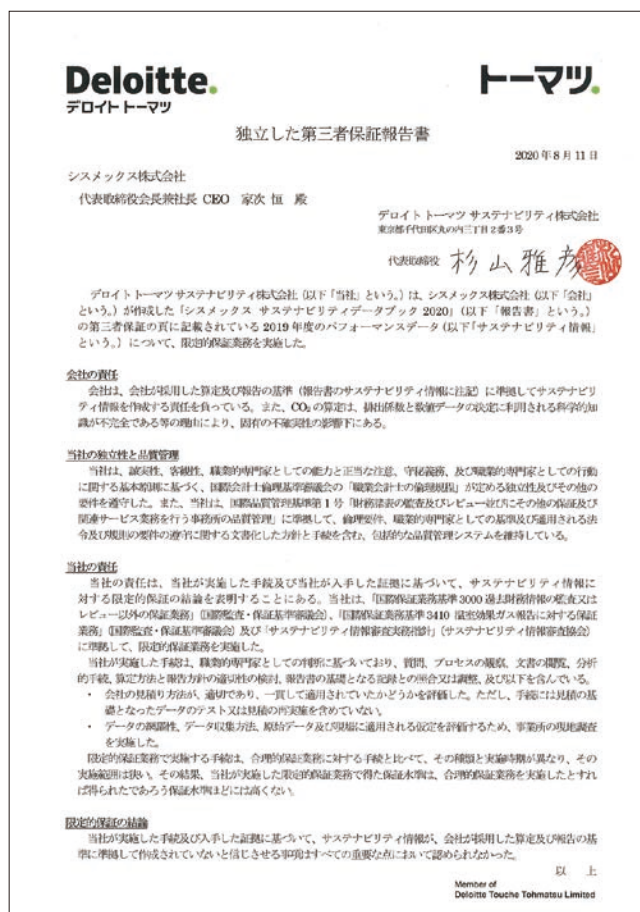
※6 「ロジスティクス分野におけるCO₂排出量算定方法 共同ガイドラインVer.3.1」に基づく排出原単位

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	カバー率 ^{※2}	算定方法など
	0	0	0	0	0	84%	
	0	0	0	0	0		
	0	0	0	0	0		
	0	0	0	0	0		

実績データ

第三者保証

「シスメックス サステナビリティデータブック 2020」では、開示しているデータの信頼性を向上させるため、パフォーマンスデータ（下表）について、デロイトトーマツサステナビリティ株式会社の保証を受けております。



保証対象：

パフォーマンスデータ		2019年度実績	対象範囲および算定方法
社会	女性マネジメント比率	7.8%	シスメックス株式会社 課長級以上の女性比率(2020年3月31日時点)
環境	温室効果ガス排出量 スコープ1 (固定排出源からのエネルギー起源CO ₂ 排出量 および社用車からのCO ₂ 排出量)	4,093 t-CO ₂	各項目の対象範囲および算定方法などは P.79～P.81参照
	温室効果ガス排出量 スコープ2	21,710 t-CO ₂	
	温室効果ガス排出量 スコープ3 (物流におけるCO ₂ 排出量)	18,547 t-CO ₂	
	水使用量	512 千m ³	
	国内産業廃棄物排出量	630 t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」 に基づく排出量

実績データ

ガバナンスデータ

▶ コーポレート・ガバナンスについてはこちらをご覧ください。

医療機関等への資金提供等に関する情報※

日本

(単位:千円)

種類	詳細	2016年度	2017年度	2018年度
研究費開発費等	大学や研究機関等との共同研究または委託研究、公的規制のもとで実施される臨床試験、治験、製造販売後臨床試験、製造販売後調査、および企業が独自に行う調査等の費用が含まれます。	132,347	297,106	393,458
学術研究助成費	医療技術の学術振興や研究助成を目的として行われる奨学寄付金、一般寄付金、および学会等の会合開催を支援するための学会寄付金、学会共催費が含まれます。	1,950,674	312,138	299,657
原稿執筆料等	医学・薬学に関する情報、自社製品の適正使用等に関する情報等を提供するための講演や原稿執筆、コンサルティング業務の依頼に対する対価(報酬)等が含まれます。	39,246	42,990	47,903
情報提供関連費	医療関係者に対する自社製品の適正使用、安全使用のために必要な講演会、模擬実技指導、説明会等の費用が含まれます。	157,657	233,292	241,298
その他の費用	社会的儀礼としての接遇等の費用が含まれます。	21,374	35,902	45,736
合計金額		2,301,298	921,428	1,028,052

米国 サンシャイン法

種類		2017年	2018年	2019年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	477	667	265
	金額	US \$99,210	US \$152,027	US \$146,234
研究	件数	26	9	9
	金額	US \$342,614	US \$228,092	US \$179,685

フランス サンシャイン法

種類		2017年	2018年	2019年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	346	351	239
	金額	€ 53,700	€ 27,603	€ 15,416
役務に対する報酬	件数	9	7	8
	金額	€ 51,776	€ 58,500	€ 13,883
契約	件数	16	19	10

ベルギー サンシャイン法

種類		2017年	2018年	2019年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	6	7	0
	金額	€ 11,563	€ 9,261	0

※ 当情報は、行政当局または医療機関等による確認等を通じ修正されることがあります。

※ 過去の開示データから一部修正しています。

公開対象

米国

以下の相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品、研究）

- ・米国の医師
- ・米国の教育研究病院

フランス

以下の相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品、役務に対する報酬、契約）

- ・フランスの医師、医療専門家、医学生
- ・フランスの医療関連法人（教育機関、企業等）

フランスのサンシャイン法では、契約金額は公開対象ではありません。

ベルギー

以下の相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品）

- ・ベルギーの医療従事者
- ・ベルギーの医療関係の団体
- ・ベルギーの患者団体

情報開示体系

非財務情報	財務情報
<p>統合報告書「シスメックスレポート」(年度報告書)</p> <p>中長期的な価値創造の観点から財務・非財務情報を簡潔にまとめた統合報告書を作成しています。</p>	
<p>サステナビリティサイト</p> <p>サステナビリティへの取り組みについて詳細を開示しています。</p>  <p>▶ サステナビリティデータブック(年度報告書) (PDF形式 / 5.70MB) </p>	<p>IR情報サイト</p> <p>財務情報や株式・株主情報を詳細に開示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有価証券報告書 ・決算短信 など 
<p>コーポレート・ガバナンスに関する報告書 (PDF形式 / 113KB) </p>	

編集方針

「サステナビリティデータブック」は、統合報告書「シスメックスレポート」(中長期的な価値創造の観点から財務・非財務情報を簡潔にまとめた報告書)を補完するもので、シスメックスの社会的責任(CSR)を含む詳細情報を記載しています。「シスメックスレポート」とともに、ステークホルダーの皆様との対話を深め、シスメックスの価値を総合的に判断いただくことを目的として、2019年度から発行*しています。

※2018年度までは「シスメックス あんしんレポート」を発行。

参考にしたガイドライン

- ・GRI (Global Reporting Initiative)
- 「GRIサステナビリティ・レポートング・スタンダード」
- ・環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」

対象組織

原則としてシスメックス(シスメックス株式会社および国内・海外グループ会社)を対象としています。本報告書中の「シスメックス」はシスメックスグループを、「シスメックス株式会社」は、シスメックス株式会社単体を指します。

対象期間

2019年度(2019年4月1日から2020年3月31日)を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。最新情報については、サステナビリティサイトのサステナビリティピックアップでお伝えします。

発行時期

2020年8月(英語版は9月)

※2021年1月更新:

環境マネジメント>TCFD提言への対応 p46-47

本報告書に関するお問い合わせ先

シスメックス株式会社 CSR・環境推進部
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
Tel 078-265-0500(代表) Fax 078-265-0524

見通しに関する注意事項

本レポートに記載されているシスメックスの将来の計画・予測などは、現在入手可能な情報に基づくものであり、不確定な要素を含んでいます。これらの計画・予測と実績が大きく異なる可能性があります。

シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 〒651-0073

Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524

www.sysmex.co.jp